

戦後日本の地学（昭和 20 年～昭和 40 年）〈その 6〉

—「日本地学史」稿抄—

日本地学史編纂委員会*

東京地学協会

Trends of Geosciences after the Pacific War in Japan, 1945 to 1965 Part 6

Editorial Committee of History of Geosciences in Japan*

Tokyo Geographical Society

[Received 17 May, 2018; Accepted 15 August, 2018]

Abstract

The development of geomorphology, human geography, history and methodology of geography, regional geography, and geographic education in Japan from 1945 to 1965 are described. Research objectives and methodologies of geomorphology diversified during this period. A series of natural disasters triggered by earthquakes and typhoons raised social demands for disaster prevention and national land-use management. Full-scale geomorphic studies, fused with geology and engineering, started. Historical geomorphology of lowland plains and process geomorphology began to develop, adding to traditional descriptive geomorphology. The Research Institute for Natural Resources and the Geographical Survey Institute contributed to the post-war reconstruction of geomorphology. Aerial photo interpretation and quantitative land surface analyses developed. A hierarchical landform classification for lowland plains was established and applied to many plains in Japan and developing countries, in order to predict areas subject to flooding and land use planning. The postwar education system increased the number of physical geographers. They contributed to the land classification of Japan as a whole and increased interest in Quaternary environmental changes such as climate and sea level changes, as well as crustal movements, which have produced landform diversity. In 1956, they established the

* 委員長：黒田和男

委員：加藤茂生（早稲田大学）
加藤 茂（日本水路協会）
島津俊之（和歌山大学）
須貝俊彦（東京大学）
谷本 勉（法政大学）
矢島道子（日本大学）
山田俊弘（東京大学）
八耳俊文（青山学院女子短期大学）

* Kazuo KURODA

Shigeo KATO (Waseda University, Tokorozawa, 359-1192, Japan)
Shigeru KATO (Japan Hydrographic Association, Tokyo, 144-0041, Japan)
Toshiyuki SHIMAZU (Wakayama University, Wakayama, 640-8510, Japan)
Toshihiko SUGAI (University of Tokyo, Kashiwa, 277-8563, Japan)
Tutomu TANIMOTO (Hosei University, Tokyo, 102-8160, Japan)
Michiko YAJIMA (Nihon University, Tokyo, 156-8550, Japan)
Toshihiro YAMADA (University of Tokyo, Tokyo, 113-8654, Japan)
Toshifumi YATSUMIMI (Aoyama Gakuin Women's Junior College, Tokyo, 150-0002, Japan)

Japan Association for Quaternary Research in cooperation with geologists, anthropologists, and archaeologists. Human geographical research in postwar Japan was far more active and diverse than in the prewar years. This was partly the result of an increase in academic posts devoted to human geography in relation to curriculum reforms in secondary and higher education. Initially, settlement geography was a major field of study. Subsequently, historical geography and economic geography were gradually popularized with the establishment of specialized academic societies, which were dedicated to both fields of study. Among the newly emerging fields were urban, social, and cultural geography. The history and methodology of geography were viewed as overarching fields connected to both physical and human geography. Despite ongoing diversification within geographical research, various topics in these fields were addressed by Japanese geographers. This reflected long-lasting debates concerning the disciplinary identity of geography itself. Regional geography and geographic education concerned both physical and human geography. These research fields were invigorated because of the relative importance of geography in Japan's secondary and higher education systems up to the early 1960s.

Key words : landform classification, historical geomorphology, process geomorphology, Quaternary environmental changes, human geography, settlement geography, historical geography, urban geography, economic geography, social and cultural geography, regional geography, history of geography, geographic education

キーワード : 地形分類, 発達史地形学, プロセス地形学, 第四紀環境変動, 人文地理学, 集落地理学, 歴史地理学, 都市地理学, 経済地理学, 社会・文化地理学, 地誌学, 地理学史, 地理教育

IV. 地 理 学

「戦後日本の地学〈その6〉」では、地理学について述べる。地理学は自然地理学と人文地理学に大別される一方、1949年から1966年にかけて、「自然地理学の全般的な状況は戦前の地形学中心の自然地理学から、地形学、気候学、水文学、土壌学、生物地理学などに専門分化が進行し…自然地理学の全体を把握することが難しくなりつつあった」(米倉, 1996, p. 120)。本稿では、自然地理学分野については、地形学を中心に記述し、気候学などについては別稿で述べる。

1) 地形学

1-1) 概要

1944(昭和19)年から1959(昭和34)年にかけて、大地震や台風による自然災害が相次ぎ、防災と国土保全のための地形調査の需要が高まった。地形学の対象と方法は多様化し、地質学や土木工学との融合研究もみられるようになった。

デーヴィス流の地形学を主としていた日本の地形学界に、新たな2つの潮流—主たる生産活動の場である平野の地形発達史の研究, ならびに、地形変化のダイナミクスの解明を目指す地形営力の研究—が生まれた(貝塚ほか, 1963)。技術面では、空中写真を利用した地形判読技術が確立し、地形計測手法の開発も進んだ。

戦後民間の研究機関として再発足した資源科学研究所(1971年閉所)や、終戦直後に発足した地理調査所(後の国土地理院)は、日本の地形学の再生に貢献した。教育面では1949年に全国の新制大学に地理学科や地理学講座が設置され、地理学研究者の人員が充実し、地形分類や土地分類調査が進捗した。地形研究者は、自然環境の変遷史への関心を高め、地質学や人類学、考古学の研究者と共同し、1956年に日本第四紀学会を創設した。

1-2) 山地・斜面地形研究

戦前、東京帝国大学の辻村太郎は、米国のデー

ヴィス (W. M. Davis) の侵食輪廻説 (Davis, 1912) を導入し、日本各地の山形、谷形、準平原などを記載した (辻村, 1929)。1950 年頃、準平原や侵食面の研究が再開された (辻村, 1952; 三野, 1952 など)。明治大学の岡山俊雄は全国の接峰面図を作成し、接峰面に表れる急斜面に着目して山地を区分し、山地と断層運動や地質構造との関係を論じた (岡山, 1953, 1961)。侵食面の研究は、関東山地と多摩丘陵 (岩塚, 1952)、六甲山地 (Huzita, 1962)、中国山地 (Nishimura, 1963)、北上山地 (Nakamura, 1964) などで行われ、全国の侵食小起伏面分布図が作成された (岡崎, 1967)。侵食小起伏面を指標とした山地の隆起量の推定も試みられ (貝塚ほか, 1963 など)、それらの成果は、後に日本の山地の第四紀の隆起量分布図 (第四紀地殻変動研究グループ, 1968) に結実した。

デーヴィスの侵食輪廻説と並んで、戦後日本の地形研究に多大な影響を与えたのは、ドイツのペンク (W. Penck) の地形分析理論 (Penck, 1924) であった。「山地の隆起速度」は「河川の下刻速度」を、「河川の下刻速度」は「河谷の側壁斜面の傾斜」を規制するので、斜面地形を分析すれば、隆起速度を推定可能とペンクは考えた。同時に作用する隆起と侵食によって地形は形成されてきた、というペンクの発想は、地殻変動の活発な日本に浸透し、地形計測の進歩を促した。東京教育大学の町田 貞は、段丘を刻む河川の側壁斜面 (段丘崖) にペンクの考えを適用した (町田, 1963)。東京大学の阪口 豊は、地表面の高度分布を広義の斜面形とみなし、その統計分析に基づき山地形成史を論じた (阪口, 1964, 1966)。また、阪口 (1965) は、全国の河川流域の面積-高度比分布曲線を解析し、地形発達史の地域多様性の原因を考究した。シャイデッガー (A.E. Scheidegger) の理論地形学 (Scheidegger, 1961) も日本の数理地形学の進展に寄与した。

山地の侵食・解体については、戦前に東京文理科大学の三野与吉が論じた水系発達観 (三野, 1942) をとり入れた研究が進んだ。東京教育大学の谷津栄寿は、秩父山地において、水系密度と

斜面傾斜と起伏量の分布図を作成し、山地の東部で侵食が進んでいることを論じた (谷津, 1950)。東北大学の西村嘉助は、準平原が保存されやすい条件を水系発達と関連づけて論考した (Nishimura, 1963)。東京大学の吉川虎雄は、台地面形成時に山地もしくは丘陵地であった場所が台地面より低くなる現象を牧之原台地周辺で見いだし、地形の逆転と呼んだ。そして、透水性の大きい台地面では河流が生じ難く、原面が保存されやすい一方で、水系発達の進んだ山地や丘陵地では全体的に高度低下することが原因であると考えた (吉川, 1947)。地形の逆転は、碓氷川南岸でも見いだされた (町田, 1950)。また、東北大学の中川久夫は、上総層群の砂岩層が丸みを帯びた尾根を、泥岩層が底平な谷をつくること、その原因は両岩の透水性の違いにあることを指摘した (Nakagawa, 1960)。このように、地質構造に関係する地形 (構造地形) には、基盤岩石の透水性や強度を反映した差別侵食によって生じるものが多くあることが明らかになった。差別侵食によって生じる構造地形を組織地形、地殻変動によって生じる構造地形を変動地形と称して両者を区別することが提案された (貝塚ほか, 1963)。

非火山性の山地と比べて火山を対象とした地形研究は、この時期少数にとどまっていた。しかし、東京大学の久野 久による箱根火山の形成史の研究 (Kuno, 1950, 1951) や、東京大学の佐藤 久による日本の火山体の地形研究 (佐藤, 1950) は、後に影響を与えた。火山体の侵食に関しては、富士山を対象とした先駆的な研究が行われた (岩塚・町田, 1962)。火山灰に着目した地形研究については、1-5) で触れる。

山地を構成する個々の斜面地形に関しては、防災や農林業との関わりを中心に研究が行われた。地すべり地形に関しては、後述の空中写真判読技術が適用され、応用研究が進展した。地すべり土塊は大規模なものが多く、山地では貴重な緩斜面をなすとともに、再活動によって災害を生みやすいことが、その背景にあった。地すべりは、破碎帯やグリーンタフ地域、多雪地域に分布しやすいとされ (小出, 1955)、その成因論的、分類学的

研究の必要性が指摘され（谷津, 1965a）、地質構造（黒田, 1966）や地すべり粘土（谷津, 1965b）との関わりが研究された。山崩れ（斜面崩壊）に関しては、東京都立大学の町田 洋が、大規模崩壊による突発的な土砂供給が河川地形の発達に多大な影響を与えてきたことを示し（町田, 1959, 1962）、低頻度大規模地形変化への関心を集めた。小規模な表層崩壊に関しては、お茶の水女子大学の式 正英が山地斜面を凹斜面と凸斜面の2つの地形単位に分類し、凹型斜面が不安定であることを論じ（式, 1960）、九州大学の竹下敬司が林業立地の観点からこの見方を発展させた（竹下, 1961）。東京大学の岩塚守公は、防災的観点から全国の国鉄沿いに発生した斜面崩壊特性に関する研究を行った（岩塚, 1954）。山崩れの地形研究は進捗したもの（市瀬, 1957, 1960 など）、崩壊地を地形単位とする山地の地形分類や山地斜面の編年学的研究は1970年代まで待たねばならなかった。

1-3) 氷河・周氷河地形を中心とした気候地形研究

東京高等師範学校（後に東京帝国大学）の山崎直方が、ドイツ留学から帰国した年に、日本に化石氷河地形が存在することを報じると（山崎, 1902a, b）、日本各地で氷河の痕跡探しが始まり、“氷河論争”が起こった。戦後は、モレーンなどの氷河作用の証拠に基づく研究が定着し（式, 1952 など）、氷河作用の時期の特定や古気候との関連性に関心が広がった。北海道大学の橋本誠二と熊野純男は、日高山脈で氷食地形を実測し、氷河作用が2時期認められることを示し、リス氷期とヴェルム氷期に対比した（橋本・熊野, 1955）。後に、これら2時期は、最終氷期の2度の亜氷期であることが判明する（小野・平川, 1975）が、日本アルプスや日高山脈では複数回の氷河作用が認識されるようになり、富山大学の深井三郎や信州大学の小林国夫らによって、氷河作用の編年学的研究が進んだ（深井, 1956a; Kobayashi, 1958）。また、氷河作用が、山地や河谷の地形発達に与える影響も考察されるようになった（深井, 1956c, 1960; 式, 1961; 小林, 1962）。空中写真判読によ

る氷河地形の研究（五百沢, 1962, 1963）がはじまると、氷河地形の研究範囲は時間的にも空間的にも飛躍的に拡大された（小疇, 1988）。

ドイツ留学から帰国した東京大学の鈴木秀夫は、宗谷丘陵に周氷河性皿状地を見いだすとともに、最終氷期には、北海道と本州北部の低地が広く周氷河帯（永久凍土帯）になったことを明らかにした（鈴木, 1960, 1962）。北海道や中部山岳地域では、構造土や氷楔の研究が進んだ（Kobayashi and Mori, 1956; 鈴木ほか, 1964; 小疇, 1965）。ドイツのビューデル（J. Büdel）の気候地形学の体系（Büdel, 1950, 1977）やフランスのトリカル（J. Tricart）とカユ（A. Cailleux）の気候地形学の教科書（Tricart, 1952; Tricart and Cailleux, 1955）の影響も加わり、氷期の日本列島は、現在と大きく異なる地形形成環境下にあったと考える研究者が増えた。また、古い地形面を覆う赤色土などの成帯性化石土壌の地史的な研究も行われた（松井・加藤, 1962）。後述のように1960年頃からは、火山灰編年学的手法が地形面の年代決定に適用されるようになり、気候変化を原因とする河成段丘の形成が活発に議論されるようになった。

1-4) 沖積平野の研究

沖積平野は、地形形成作用と人類活動がともに活発な場である。両者の関係の歴史の変遷過程の研究は、戦後本格化した。東京大学の多田文男が中心となり、沖積平野の地形形成プロセスと考古遺跡の立地の関係についての総合的な研究が登呂遺跡で行われ（多田ほか, 1954）、九十九里浜や遠州灘平野などでも成果をあげた（多田, 1964）。1950（昭和25）年に文化財保護法が施行され、遺跡の立地環境の解明が進み、地形形成過程の理解を促した。より広域で長期的な地形環境史に遺跡を位置づける総合的な視点も養われていった。

1947～48年に東日本に上陸したカスリン台風とアイオン台風は、洪水時の河川の土砂運搬・堆積作用への関心を喚起した。渡良瀬川（多田ほか, 1952）、木曽川（谷津, 1954）などで、河床変動や河床縦断面形と河床物質の粒径との関係が

検討された。また、利根川、多摩川、常願寺川などで、河道固定やダム建設などの人為地形変化が河床変動に及ぼす影響が調査された（多田，1964）。沖積平野の地盤沈下に及ぼす人為影響に関しても、地形学者による解明が進んだ（多田・井関，1955；中野・武久，1960 など）。

戦後、都市開発、インフラ整備、地下資源開発を目的として、日本各地の沖積平野で膨大な数の地質ボーリングが行われ、沖積層の層序や物性、埋没地形に関する知見が急速に蓄積された（東京地盤調査研究会，1959；池田，1964）。平野埋積層から産出する貝化石や有機物の放射性炭素年代測定が実施され（市原・木越，1960；Kigoshi *et al.*，1962 など），沖積層の基底に河成礫層が堆積することが判明した。東京大学の杉村 新は、東京湾底地下の標高-85 m付近に礫層を認め、氷期の低海面期に陸化した東京湾を流下した河川の堆積物と考えた（杉村，1950）。礫層は音波探査によって追跡され、礫層を堆積した河川は古東京川と命名された（中条，1962）。他方、東京都立大学の貝塚爽平は、相模湾の陸棚地形が氷期の低海面期に形成されたことを指摘した（貝塚，1955）。名古屋大学の井関弘太郎は、沖積層の基底礫層の深度分布を調べ、氷期に乾陸化した陸棚に礫床河谷が延長し、基底礫層を堆積したと論じた（井関，1956）。東京都立大学の野上道男は、十勝平野沖を例に、氷期の海退時に現れる延長河川は陸棚を下刻するとは限らず、その地域の原地形や河況・海況に左右されることを指摘した（野上，1964）。

氷期の低海面期に形成された礫床河谷に、後氷期の急激な海面上昇によって海水が侵入し（縄文海進）、海域が拡大後、8000～7000年前頃に海面上昇が鈍化すると、デルタが前進し、沖積平野を形成してきたことが明確にされていた（中野，1956；阪口，1963 など）。日本の沖積層は、沖積層基底礫層、下部砂層、中部泥層、上部砂層、最上部陸成層に層序区分され、氷河性海水準変動に支配された沖積平野の発達史が明らかにされた（井関，1962；羽鳥ほか，1962；池田，1964）。三浦半島や房総半島南端部では、相模トラフで生じる海溝型地震に伴う隆起運動の繰り返しによって、

完新世に海成段丘が形成されたことが解明された（Sugimura and Naruse，1954，1955）。

1-5）段丘地形の火山灰編年学的研究と地殻・気候・海水準の変動

戦後、火山灰編年学的手法が洗練され、河成・海成段丘面の時代区分が本格化するとともに、千～十万年オーダーでの地殻変動や海水準変動、気候変化などの地形形成環境史の復元や、環境変化に対する地形応答の解明が進んだ。地殻変動や河川・海岸プロセスが活発ゆえ、地形面の分化が顕著なこと、数多くの第四紀火山が噴火を繰り返し、火山灰編年しやすいことを生かした、日本独自の地形発達史研究が育っていった（貝塚，1956；土，1959；阪口，1959 など）。

火山灰（テフラ）の編年学的研究は、関東平野を中心に貝塚（1958）、町田（1964a, b）、関東ローム研究グループ（1965）等によって進められた。東京軽石層などの多数の軽石層を鍵層として、多摩面・下末吉面・武蔵野面・立川面を覆う風成ローム層が層序区分され、ローム層の被覆状態から関東地方の段丘面の離水年代が明らかにされていった。火山灰編年を地形発達に応用するうえで、東京大学の中村一明は、火山灰層の堆積学・層序学的な性格や火山噴火との関係を解明し、重要な役割を果たした（中村，1963；中村ほか，1963）。

河成段丘については多くの研究がなされた。段丘の高度分布、構造、層序・編年、河床堆積物などの調査が進んだ（深井，1956b；町田・大倉，1960；吉川，1961；小林，1962；寿円，1965a, b）。1950年代中葉まで、河成段丘の成因は、おもに間歇的な隆起や火山活動に求められていた。その後、氷河・周氷河地形研究が進み、上流域に発達する堆積段丘は、氷期の気候の寒冷化に伴う掃流土砂量の増加と掃流力の低下が原因と考えられるようになった（深井，1956c；貝塚ほか，1963 など）。下流域の河成段丘は、海面低下に伴い段丘化したサラソスタチック段丘であるとされた（貝塚ほか，1963）。

海成段丘は、地盤運動と氷河性海水準変動が組み合わさって形成されてきたことが吉川・貝塚

(1956)によって示され、同様の見方で、日本各地の海成段丘面の編年が進捗した(吉川ほか, 1964; 太田, 1964 など)。そして一連の海成段丘研究は、地形面を用いた日本列島の地殻変動像の解明へと発展していくことになる。

1-6) 日本第四紀学会の創設

1950(昭和25)年までに日本語で書かれた第四紀の成書は、東京大学の太塚弥之助が1931年に岩波講座の1冊として出版した『第四紀』(太塚, 1931)だけであった。杉村・第四紀文献センター(2016)によれば、同書には、ミランコビッチの太陽熱輻射曲線が掲載され、「活断層」(太塚, 1931, p. 103)やHoloceneを最初に日本語に訳した「完新时期」(太塚, 1931, p. 3)といった用語も登場し、「編年尺度、動植物化石、人類の遺骸・遺跡・遺物、気候変化、地形、堆積物、岩石、地殻変動、火山活動など」が並べられており、本書の出版後「実に25年にして創立された、日本第四紀学会の会員構成を反映している感がある」(杉村・第四紀文献センター, 2016, p. 14)という。

日本第四紀学会は、日本学術会議地質学研究連絡委員会に1951年に設置された第四紀研究小委員会が母体となって、1956年に創設された。日本第四紀学会の設立前から20周年までの歴史は、松井ほか(1977)が詳しい。関東造盆地運動の提唱者として知られる矢部長克が初代会長に就任し、次に地形学者の多田文男が会長を2期務め、陸水学者の山本莊毅が継いだ。日本第四紀学会の機関誌『第四紀研究』の初期10年間(1957-66年)の通常号に掲載された論文74編のうち、層序・地史、段丘・氷河性海水準変動がそれぞれ2割程度を占め、古生物、人類、沖積、気候変動が次いでいる。特集号では、テフロクロノロジー、古土壌、沖積層、第四紀年代測定、第四紀ネオテクトニクスをテーマとしたものが発刊された。『第四紀研究』に、第四紀地形発達史の論文が掲載され、気候変化、海水準変動、地殻変動などの第四紀の自然環境変化と地形形成の関係の理解が進んだ。

1-7) 空中写真の利用と地形分類の発展

戦後、航空機を使ってステレオ撮影された空中

写真の利用が普及し、写真の実体視判読によって、地表面の微起伏や傾斜変換線などを広範囲に認定可能となり、地形研究に質的な転換をもたらした。また、空中写真測量技術が開発され、高精度の2万5千分の1地形図の全国整備がはじまった。

空中写真の判読は、初期には、土地の有効利用や分類を目的として実施されることが多かった。国土地理院の土地条件図や治水地形分類図、国土庁の5万分の1土地分類基本調査の地形分類図の作成などにおいて、全国の地形を同一基準で網羅的に分類するうえで、空中写真判読は不可欠な役割を果たした。地形分類の基準を確立したのは、地理調査所(後に東京都立大学)の中野尊正らであった。中野(1952)は、地形形成作用に重きをおいた成因論的地形分類体系を考え、階層的な地形地域区分を提唱した。岡山(1953)や渡辺(1952, 1957)の地形区分も階層分類という点で共通するが、中野(1952)は、地形の形成プロセスと構成物質と形態とが一体化した最小地形単位を「地形型」とよび、「地形型」を最下位階層における地形分類単位とすることによって、地形空間を系統的に理解する道を開いた。とくに、空中写真判読による「地形型」の認定が容易な堆積平野において、効力を発揮した。1956(昭和31)年に地理調査所(後に早稲田大学)の大矢雅彦は空中写真判読に基づき、「木曽川流域濃尾平野水害地形分類図」を公表した(大矢, 1956)。1959年に濃尾平野を直撃した伊勢湾台風による高潮洪水浸水域は、大矢(1956)の地形分類図のデルタ域と一致し、中部日本新聞のサンデー版(10月11日付)に当該の地形分類図が掲載され、「地図は悪夢を知っていた」と報じられた。地形分類が水害予測に役立つことが実証され、日本内外の沖積平野の水害地形分類図が作成されていった(大矢, 1960; Oya, 2001)。

空中写真判読による地表・地形区分と地下地質情報との関係についても研究が進んだ。沖積平野において、地質調査所の黒田和男は地表区分が地下約5mまでの表層地質区分として利用できることを示した(黒田, 1962)。東京都立大学の

門村 浩は、微地形判読と組み合わせることで、軟弱地盤の分布を空中写真判読から推定する方法を開発した（門村, 1965, 1966）。山地丘陵では、差別侵食地形や水系から地質岩体の広がり（武田, 1962）、斜面微地形から不安定斜面領域を識別できるようになった（岡, 1964）。その後、空中写真判読技術は進歩を続け、大学専門教育において、実体視できる空中写真は不可欠な存在となった（貝塚, 1985）。

2) 人文地理学

2-1) 概要

日本地理学会の第8代会長を務めた富田芳郎（日本大学）は、1960（昭和35）年の会長講演において、地理学の自然科学と人文科学への分割は学問上の「悲劇と見られるかも知れない」と述べた（富田, 1960, p. 298）。この言明は、第二次大戦以後の日本の地理学が、それ以前に比べて著しい専門分化を遂げるに至ったという現実を反映している。とりわけ、戦後の教育制度の改革とも呼応した広義の人文地理学分野の伸長と細分化は、無視できない出来事であった。1947年に大学基準協会が発足し、新制大学の一般教養科目の一つとして人文地理学が置かれた。同年告示の学習指導要領では、新制高等学校の社会科の一科目として人文地理が設けられた。1946年に発足した西日本地理学会は、これらの動きに呼応して1948年に人文地理学会と改称し、同年に機関誌『人文地理』を発刊した（織田, 1959a）。また、1952年に発足した経済地理談話会が母体となり、1954年に経済地理学会が設立されて機関誌『経済地理学年報』の発刊をみた。さらに、1958年に発足した日本歴史地理学研究会は、翌年より年報『歴史地理学紀要』を刊行し、1966年には歴史地理学会と改称した。人文地理学の個別分野に特化したこれら二つの団体が、「単一の地理学」を標榜する日本地理学会とある種の緊張関係を孕みつつ発足したことは否定できない（経済地理学会, 2003; 中田, 2008）。

戦後20年間の人文地理学を特徴づけるのは、分野の細分化だけではない。人文地理学の諸分野に通底するトレンドも、いくつか見いだすことが

できる。戦争遂行に積極的に関与しようとした日本地理学に対する反省は、人文地理学の全般的な非政治化につながった。また人文地理学会を中心として、地域を多面的に捉える共同研究の機運が芽生え、新制大学のいくつかの地理学教室を拠点とした研究成果が刊行された（人文地理学会, 1955; 奈良女子大学地理学教室, 1961; 藤岡, 1961, 1964）。これには、「わが国人文地理学界のパイオニア」（飯塚, 1955, 序文 p. 15）と称えられた小田内通敏（国立音楽大学）が、京都大学の「織田・藤岡の2教授」に向けて、「立命館大学を始め、人文地理学会の諸氏と共に…協同研究を特定地域で遂行すること」が、「日本の人文地理学を育成する上に、新しい母胎となる」と呼びかけたことも関係していよう（小田内, 1951, p. 5-6）。さらに、人間活動と環境諸要素の機能的連関に着目する生態学的視点が重視されたこともこの時期の特徴である（西川, 1954; 藪内, 1958; 野間, 1961）。そして1950年代後半より、地域統計データの計量的分析を行う研究が出現しはじめ、1960年代前半には米国を中心とした計量地理学の動向が体系的に紹介されるようになる（正井, 1962）。また、国土総合開発法の施行（1950年）や、ストックホルムにおける第19回国際地理学会会議（1960年）での応用地理学分会の設置を契機として、応用地理学に対する関心が高まったのもこの時期であった（谷岡, 1962; 清水ほか, 1966）。1962年には人文地理学会に応用地理部会が設けられ、おもな研究テーマとして自然災害や地域計画などがとりあげられた（人文地理学会, 1998）。以下では人文地理学の個別分野ごとに、研究動向と成果について触れる。

2-2) 集落地理学・歴史地理学

集团的居住の場としての集落は、人間と環境の歴史的な相互作用の場として、戦前より多くの地理学者の注目を集めてきた。この傾向は戦後も引き継がれ、佐賀県立図書館の嘱託であった米倉二郎は『聚落の歴史地理』を著し、集落地理学は人文地理学の分科のなかでも「最も研究の進んだ部門」とした（米倉, 1949, 序）。同書では、日本の古代から近代に至る、都市・村落の総称としての

広義の集落の変遷が論じられた。その後、広島大学に迎えられた米倉は『東亜の集落』を上梓し、東アジアにおける集落の比較研究の道を開いた(米倉, 1960)。矢嶋仁吉(群馬大学)の『集落地理学』も、「一切の人類の地上占居の状態」を研究対象とした業績である(矢嶋, 1956, p. 1)。中島義一(日本大学第二高校)が著した『市場集落』は、「都市と村落の切点に位する」存在としての市場集落を歴史地理的に考察したユニークな書物であった(中島, 1964, p. 1)。こうした広義の集落地理学の到達点は、全4巻の『集落地理講座』によって示された。第1巻は「総論」、第2巻は「発達と構造」、第3巻は「日本の集落」、第4巻は「世界の集落」であり、集落地理学の諸問題が包括的にとりあげられるに至った(木内ほか, 1957-1959)。

その一方で、対象を農山漁村に限定した狭義の集落研究も進展した。矢嶋は『武蔵野の集落』において新田集落の立地を扱った(矢嶋, 1954)。西川 治(東京大学)は、農村集落の社会的性格を周囲の環境との関連で生態学的に捉えた(西川, 1954)。村松繁樹(大阪市立大学)は『日本集落地理の研究』を上梓し、農山漁村の形態と共同体的性格の史的考察に取り組んだ(村松, 1962)。また水津一郎(大阪市立大学)は、近世の制度的枠組みとしての藩政村と実質的な村落共同体との関係から標準型・須恵村型・煙山村型の類型を設定した(水津, 1957, p. 320)。村落共同体の空間的側面に向けられた水津の関心は、それ以後の山口弥一郎(亜細亜大学)や石原 潤(京都大学)らの研究の先駆けとなるものでもあった(山口, 1964; 石原, 1965)。また成田孝三(京都大学)は、1955年臨時農業基本調査で設定された統計単位である「農業集落」について、近畿・北陸・東海や山村・農山村では地域単位や共同体として有意性をもつとした(成田, 1965)。これに対して竹内啓一(国際文化振興会)は、社会経済史を考慮した景観論の立場からイタリアの農村集落の類型化を試みた(竹内, 1965)。

集落地理学との関連で戦後盛んになったのは、歴史地理学の研究であった。内田寛一(日本大

学)は、全3巻からなる『歴史地理講座』(森・織田, 1957-1959)の第1巻に収録された「歴史地理学序説」のなかで、歴史地理学の目的を「過去における人間活動(または人生)を人と自然環境との相互関係に主眼を置いて闡明する」こととした(内田, 1959, p. 4)。喜多村俊夫(岡山大学)の『日本灌漑水利慣行の史的研究』(喜多村, 1950)は、歴史地理学と農業経済史の双方にまたがる業績であり、昭和26年度の日本農学会賞を受賞している。他方で藤岡謙二郎(立命館大学)は『地理と古代文化』(藤岡, 1946)を著し、地理的環境と人類の社会・集落・文化との融合を発展史的に考察した。「時の断面」の時系列比較を重視する藤岡の立場は、後に地域変遷史あるいは景観変遷史として定式化され、『先史地域及び都市域の研究』(藤岡, 1955)や『都市と交通路の歴史地理学的研究』(藤岡, 1960)などの重厚な業績につながっていった。藤岡の指導を受けた谷岡武雄(立命館大学)も、『平野の地理』と『平野の開発』を相次いで上梓し(谷岡, 1963, 1964)、歴史時代における平野を舞台とした自然環境と人間活動の関わりを究明した。これに対して、大著『新田開発』(菊地, 1958a, b)を刊行した菊地利夫(千葉大学)は、歴史地理学の方法論を三層構造で捉え、「歴史の地理的解釈」が基底をなし、「地域の復原」が中層に位置し、「現在における地理的事実のうちで過去に生じたものの説明」が上層にくるとした(菊地, 1959)。また矢守一彦(大阪大学)は、「地域史ないし歴史時代の地域性の反映を都市形態に求める」という新しい見方を紹介し、都市形態に関する歴史地理学的研究の刷新を図った(矢守, 1965, p. 404-405)。

2-3) 都市地理学・人口地理学

戦後日本の地理学における都市研究は、集落地理学や歴史地理学の枠内にとどまらず、おもに同時代の都市現象を扱う都市地理学としても発展をみせた。その出発点となったのは、木内信蔵(東京大学)の大著『都市地理学研究』(木内, 1951)であり、そこでは地域論と分布論というオーソドックスな地理学の観点から多様な都市現象の分

析がなされた。小林 博（立命館大学）も、地域論の立場から大都市圏（メトロポリタン・エリア）の特質を整理した（小林, 1957）。田辺健一（東北大学）は城下町の都市発展を分析し、近代化に伴って従来とは異なった新たな同心円構造が出現すると主張した（Tanabe, 1959）。特筆すべきは、因子分析を用いて東京大都市圏の地域構造を明らかにした服部銈二郎（葛飾野高校）らの共著論文であり（服部ほか, 1960）、これは後に盛んになる都市の因子生態分析の先駆けをなすものであった。また、中心地理論との関連で都市やその勢力圏の立地や広がりをも説明する研究も、渡辺良雄（東北大学）や森川 洋（広島大学）によって進められた（Watanabe, 1955, 1960; 森川, 1959a, b）。渡辺の英語論文は、中心地研究の国際的な進展に伴って広く海外で引用された（杉浦, 2004）。

1950年代後半以降は都市化研究が盛んとなり、「都市化論争」（阿部, 2003, p. 81）と呼ばれる状況が生じた。これは都市化の概念規定をめぐる論争であり、高野史男（愛知学芸大学）は近代産業の発展によって rural な地域が urban な地域に変質することを都市化とみなし、土地利用と労働形態の変化を具体的な指標とした（高野, 1959）。これに対して石水照雄（愛媛大学）は機能論の立場から、urban な地域がより高次機能に特化した urban な地域に進化することも都市化に含めるべきとした（石水, 1962）。また山鹿誠次（東京学芸大学）は、東京西郊の事例に基づき、都市化の進行に対応した同心円構造（ビジネス地域・住宅地域・周辺施設立地地域・近郊農業地域・普通農業地域）を見いだした（山鹿, 1960）。さらに山鹿は『都市発展の理論』のなかで、自然的基盤や経済的・政治的・文化的諸機能への投資の度合いによって都市発展のパターンには差異が生じるとした（山鹿, 1965）。ある意味で都市化論争は、「形態学から生態学へ」（野間, 1963）という近代地理学の潮流の転換に呼応した動きでもあったといえる。この論争を踏まえて『日本の都市化』が刊行され、そこでは都市化を都市内部から外部への形態と機能の浸透に伴う地域形成の一環と捉える見方が提起されるに至った（木内ほか,

1964）。

戦後の農山漁村から都市への人口移動は、人口地理学の研究対象としてクローズアップされることにもなった。日本の人口地理学は、相対的な研究の遅れが指摘される一方で、人口学の実証手法の導入による発展が期待されてもいた（岸本, 1961; 河辺, 1964）。インド・ボンベイの人口学研修・研究センターに留学した河辺 宏（東京大学）は、コーホート生存率法に基づいて都道府県の市部・郡部ごとの純移動数を推計し、「より農村的な県」から「より工業の発展した府県」への人口移動と、「府県内における農村部から都市への移動」がみられることを統計的に実証した（河辺, 1961, p. 101）。堀川 侃（大阪大学）は、人口規模と距離に基づいて人口集団の影響力を定量的に評価する人口ポテンシャルの考え方を紹介した（堀川, 1960）。藤沢繁樹（洛北高校）と山澄 元（京都大学）は府県単位で人口ポテンシャルの等値線図を作成し、その有効性を検討した（藤沢・山澄, 1961）。一方で川本忠平（岩手大学）は、出稼ぎという季節移動に焦点を当て、出稼ぎ労働者の輩出形態の差異に注目して東北地方の地域構造を解明した（Kawamoto, 1957, 1958, 1960）。

2-4) 経済地理学・交通地理学

1954（昭和29）年の経済地理学会の発足は、戦後の日本におけるマルクス経済地理学の発展（Mizuoka, 1983）と密接に関連していた。川島哲郎（大阪市立大学）は『経済学雑誌』に「経済地域について」を発表し、「物質的生産諸力の一定の発展段階に照応する生産諸関係の総体」にみられる差異から経済地域を捉える見方を提唱し、経済地理学の課題を「特定の生産様式にかんし、経済地域性の分析を通じて経済発展の法則を明かにしていくこと」とした（川島, 1955, p. 16, p. 32）。この論文は、『経済地理学年報』の第2巻（1956年）に転載されて広く読まれた。鴨澤巖（法政大学）は『経済地理学ノート』を著し、資本主義の諸矛盾の表出としての経済諸現象の地域性に着目した（鴨澤, 1960）。小原敬士（一橋大学）は『近代資本主義の地理学』のなかで、近代資本主義社会の地理的展開を社会経済的に価値

づけられた自然条件と社会的諸条件との関連において論じた（小原, 1965）。その一方で、近代経済学の系譜に連なる経済立地論の理論的研究も進展した。江澤譲爾（専修大学）は、『工業集積論』や『産業立地論と地域分析』を上梓して立地論の体系化に取り組んだ（江澤, 1954, 1962）。春日茂男（大阪市立大学）は、農業立地論と工業立地論の理論的連関について論じた（春日, 1962）。また笹田友三郎（同志社大学）は『地域の科学』（笹田, 1964）を著して、同時代の米国で発展をみせたリージョナル・サイエンスを体系的に紹介した。

個々の産業部門に特化した実証研究も数多く行われた。農業に関しては、西水孜郎（国立国会図書館）の『日本の農業』（西水, 1949）、安藤萬壽男（愛知大学）の『日本の果樹』（安藤, 1963）、岡本兼佳（立正大学）の『農業地理学』（岡本, 1963）、江波戸昭（明治大学）の『日本農業の地域分析』（江波戸, 1965）などの成果が刊行された。漁業では、青野壽郎（東京教育大学）の『漁村水産地理学研究』（青野, 1953）、藪内芳彦（金沢大学）の『漁村の生態』（藪内, 1958）などが特筆される。工業では、太田 勇（東京教育大学）が静岡県岳南地方の工業化を内的要因と外的要因との連関において捉え（太田, 1962）、川島哲郎（大阪市立大学）は工業の地域的構成を日本資本主義の特殊性との関連で検討した（川島, 1963）。商業・サービス業では、木地節郎（同志社大学）の『小売商圈の研究』（木地, 1958）や、樋口節夫（桂高校）の『商業地域論』（樋口, 1963）などの実証研究の成果が刊行された。

物流や人口移動の基盤としての交通現象を扱う交通地理学は、山口平四郎（立命館大学）が日本における研究の立ち遅れを指摘した（山口, 1956）。しかし翌年に田中啓爾（立正大学）は『塩および魚の移入路』を刊行し、近畿地方以東における鉄道開通以前の内陸物資輸送ルートを解明する成果をあげた（田中, 1957）。位野木寿一（大阪学芸大学）は近世から明治初年にかけての金毘羅灯籠の分布を調査し、金刀比羅宮への参詣路と参詣者集団の地理的属性との関連を論じ

た（位野木, 1959）。こうした歴史地理的研究に対して、交通現象に関わる統計データの計量的分析に基づく研究も現れた。有末武夫（東京教育大学）は、旅客流動データやバス路線網をもとに日本全国にわたる交通圏の類型化を行った（有末, 1957）。富岡儀八（龍野高校）も、港湾別の貨物流動データをもとに瀬戸内海の機帆船交通圏の特性を分析した（富岡, 1960）。また木村辰男（同志社香里中・高校）は、等運賃線図を用いて貨物輸送からみた地域構造を分析した（木村, 1963）。

2-5) 政治地理学・社会地理学・文化地理学

下部構造を扱う経済地理学に対して、上部構造を主対象とする人文地理学の諸分野も戦後に一定の進展をみせた。日本地政学への反省は人文地理学全体の非政治化につながったが、一方で政治現象の地理的側面を客観的に捉える政治地理学の胎動もみられた。岩田孝三（東京学芸大学）は『境界政治地理学』を著して、政治的組織体の地理的側面としての境界の一般性や地域性を論究し（岩田, 1953）、林 正己（新潟大学）は『市町村の政治』において明治以降の市町村合併について考察した（林, 1961）。また清水馨八郎（千葉大学）の『戦後日本の選挙の実態』は、「一票の格差」に社会的注目が集まるきっかけを提供した点で注目すべき業績であった（清水, 1958）。他方で池田善昭（島根大学）は、下部構造としての生産様式を重視する立場から、政治地理学を「経済地理学の特殊分野として再編成する」ことを主張した（池田, 1958, p. 42）。

社会地理学の分野では、小川 徹（法政大学）が自然-人間関係における媒介項としての社会環境の重要性を論じた（小川, 1953）。水津一朗（京都大学）は社会集団と地域との関連を論じる『社会地理学の基本問題』（水津, 1964）を著し、そこで展開された最小単位としての基礎地域論はそれ以後の村落社会地理学に大きな影響を与えた。文化地理学の分野では、川喜田二郎（大阪市立大学）、石川栄吉（神戸大学）、佐々木高明（立命館大学）らが初期の『人文地理』誌上で論陣を張った。彼らの立論の根底には生態学的視点があり、川喜田（1956, 1958）や石川（1951）は文化の

全体性に着目しつつ文化構造や文化領域について論じ、佐々木（1953, 1965）は焼畑などの原始農耕に自然環境への適応様式としての文化を見いだした。また石川（1955, p. 320）はテイラー（G. Taylor）の人種地理学を、「便宜的に設けたはずの学問分類」を実体化し「人類進化史の示す事実」に背くものとして批判した。やがて彼らは、日本における文化・社会人類学の発展と制度化に大きな役割を果たすことになる。また、別技篤彦（立教大学）は『東南アジア諸島の居住と開発史』を刊行し、ミクロコスモスの集積体としての東南アジア島嶼部の多様性を歴史的に描き出した（別技, 1960）。一方で、柳田国男の門下生であった千葉徳爾（信州大学）は、地理学と日本民俗学の接点を探る論文を『人文地理』に発表し、柳田の初期の論考にみられた地理学的視点の再評価を試みた（千葉, 1963）。

3) 地理学史・地誌学・地理教育

3-1) 概要

1945 年以降、地理学が著しい専門分化を遂げた一方で、「地理学はどのように発達してきたのか」「地理学はいかなる学問であり、何をどのように研究する（とされてきた）のか」を問う地理学史・方法論の研究も盛んに行われた。これは、地理学という学問のアイデンティティそれ自体が、西欧における近代地理学の発足当初より一定せず、その学問的性格や存在意義に関する議論が長く続けられてきたことを反映している。辻村太郎（日本大学）は、自らの編著書『地理学本質論』の内容を地理学史・環境論・景観論・地域論・地誌論に区分したうえで、「本質論が活発であるということは、学問が若くて疑惑が多い証拠である…この傾向は慶すべくまた憂うべきもの」とした（辻村, 1955, 序）。地誌学は系統地理学と並んで地理学の二大部門の一つとされ、そこでは自然・人文の諸要素の連関から生じる地域性の解明が求められた。また地誌学を、「ゲオグラフィアの伝統の正しい相続人」（望月, 1947, p. 109）とみて地理学方法論の根幹に据える見解も根強くみられた。地理教育は、自然地理学と人文地理学の双方に関わるものとして、理論・実践の両面から研究

が進められた。地理教育それ自体をある種の応用地理学とみなす見解も、一定程度受け入れられていた。以下ではこうした、地理学の広域にまたがる諸分野の研究動向と成果について触れる。

3-2) 地理学史・方法論

戦後の地理学史研究は、東洋における地理的知識の発達や、東西の地理的知識交流史、そして西欧における地理学史など、多方面にわたって展開した。鮎澤信太郎（日本大学）は、戦後いち早く『地理学史の研究』（鮎澤, 1948）を公刊して近世の東洋地理学史に新局面を開いた。また鮎澤は、横浜市立大学に職場を移した後に、博士論文となる「マテオ・リッチの世界図に関する史的研究」を発表し（鮎澤, 1953）、同図の近世日本における影響とその意義を明らかにした。秋岡武次郎（法政大学）の『日本地図史』も、東西の知識交流を背景とした日本地図作製史の先駆的業績である（秋岡, 1955）。また、京都帝国大学助教授の職を 1946 年に退いていた室賀信夫は、織田武雄（京都大学）らと地理学史研究会を組織し、逐次刊行物の体裁をとった『地理学史研究』を柳原書店より刊行して斯学の振興に努めた。同誌の第 1 集には、室賀と海野一隆（大阪学芸大学）の長大な共著論文「日本に行われた仏教系世界図について」が収められている（室賀・海野, 1957）。この論文の骨子は英訳され、著名な地図学史の国際誌である *Imago Mundi* に掲載された（Muroga and Unno, 1962）。これは東洋と西洋の地図交流史の一端を解明した業績として高く評価され、掲載誌よりイマゴ・ムンディ賞を授与された。また西欧地理学史に関しては、織田武雄（京都大学）が『古代地理学史の研究』を著し、ギリシア時代の地理学の特質について論じた（織田, 1959b）。野間三郎（金沢大学）は『近代地理学の潮流』において、ドイツ語圏を中心とした近代地理学史を形態学から生態学への移行と捉える見方を提唱し（野間, 1963）、同書は第 12 回中日文化賞を受賞した。フランス語圏に関しては、松田 信（三重大学）がヴィダル・ド・ラ・ブラーシュ（P. Vidal de la Blache）以降のフランス学派における生活様式概念の内容を明らかにした（松田, 1961）。

さらに松田は、大阪学芸大学に異動後に「景観と生活様式」を発表し、フランス学派の中に形態論と機能論の融合を見いだした(松田, 1965)。

さて、戦後の地理学方法論をめぐる論議に大きな影響を与えたのは、西欧地理学史研究に基盤を置く飯塚浩二(東京大学)の著作であった。『地理学批判』では地理学が社会科学の一部門とされ、「人類の地域社会をその郷土との関係、その社会が占有したその生活を依拠せしめている土地との関係において考察する」という課題が与えられた(飯塚, 1947, p. 53)。この認識に至るまでの学史的反省は『人文地理学説史』として公刊され、そこでは「現象のロカリティをまっさきに懸念するはずの地理学者が、先蹤者の学説を理解しようとする場合に限って、対象の時間的、空間的なロカリティを等閑に付してきた」という重要な指摘がなされた(飯塚, 1949, p. 73)。小原敬士(一橋大学)の『社会地理学の基礎理論』も、「社会科学としての地理学」を標榜しつつ、「社会的発展の観念的所産」としての地理学の展開を論じた業績である(小原, 1950, p. 2)。石田龍次郎(一橋大学)もまた、「社会科学に根ざした地理的視角」に基づいて、「歴史的、社会的な空間」を対象とする人文地理学を主唱した(石田, 1956, p. 12, p. 15)。

オーソドックスな地域論や分布論、そして景観論の立場からの主張も健在であった。田中啓爾(立正大学)は『地理学の本質と原理』のなかで、「地的関連」から生じる地域性の解明を地理学の本質とした(田中, 1949a, p. 9)。三野与吉(東京教育大学)は『地理の本質と地理教育』のなかで、「地表における諸々の現象を、地表に対する空間関係から把握」することを地理学の課題とした(三野, 1955, p. 200)。西川 治(東京大学)は、諸要素の連関としての地域の動態的な把握方法に関して、人類による地表占拠の時系列的連鎖に着目する占拠系列(sequent occupance)の視点を含めつつ論じた(西川, 1952)。水津一朗(大阪市立大学)は地域の機能的進化のモデルを提唱し、地域論に機能主義の視角を明示的に導入した(水津, 1958)。辻村太郎(日本大学)は

景観論の立場から、自然的制約の下で政治・経済・社会の諸力が歴史的に働いて形成される景観を、「相互の関係や生因についても説明を行う」形で記載することが地理学の出発点とした(辻村, 1955, p. 210)。

3-3) 地誌学

戦後日本の地誌学は、地域を構成する諸要素の相互関係を精査して地域性を解明するという共通認識の下に、地理教育と密接な関係を保ちつつ展開した。能登志雄(お茶の水女子大学)は『現代の地誌学』のなかで、地誌学の目的を「自然および人文の状態を調査して、その地域の特性を知ること」とした(能, 1949, p. 7)。田中啓爾(立正大学)は、「地理学を国民の利用学として活かすには、日本地誌の形で資料と原理とが提供されるべき」として「郷土新書」の刊行を企画し、自ら『東京都新誌』を執筆して先鞭をつけた(田中, 1949b, p. 5)。郷土新書は1963年までに34冊が日本書院から刊行され、これは後の『日本地誌』(全21巻)の刊行(日本地誌研究所, 1967-1980)につながるものであった。地理調査所の企画になる『日本地名事典』(全4巻)も、「一種の地誌としての体系」をもつことがめざされ(渡辺, 1954-1956)、「戦後の地理書では非常にまとまった地誌」(浅香ほか, 1959, p. 21)と評価されている。その一方で、大明堂から1960～63年に刊行された『日本地誌ゼミナール』(全8冊)は、「郷土史や日本地誌の如く、記述本位の体裁を脱し、各地域の重要問題を取りあげて、その地域的性格を重点的に把握する」ことをめざすものであった(浅香ほか, 1960, はしがき p. 2)。こうした、「網羅的」な静態地誌と「地域の主要課題」に特化した動態地誌という方向性の違い(浅香ほか, 1959, p. 13)は、世界地誌においてもみられた。石田龍次郎(一橋大学)と渡辺 光(地理調査所)が編集した『世界地理大系』(全7巻)は、地域別・国別のオーソドックスな静態地誌の体裁をとった(石田・渡辺, 1951-1952)。これに対して、入江敏夫(駒澤大学)が編集した『新らしい世界の地理』(全5巻)は、第1巻の『東アジア』が未刊に終わったものの、社会経済的側面に重点を置き

た特色ある動態地誌のシリーズといえた（入江、1957-1958）。特筆すべきは、飯塚浩二（東京大学）の編集による『世界と日本—明日のための人文地理（上・下）—』（飯塚、1955、1957）の刊行である。編者の飯塚は、「地誌の正しい取扱いにおいてこそ、地理的方法の真価が発揮される」として、「今日のわれわれの国際理解にとって大切な問題」（飯塚、1955、p. 8-9）を重点的に扱う動態地誌の立場をとった。同書は、入江敏夫を含めた「革新的地理学研究者」が執筆し、当初の目論見であった高等学校「人文地理」の教科書検定には不合格となったものの（西川、2014、p. 18-20）、第11回毎日出版文化賞を受賞するなど話題を呼んだ。一方で飯塚は『アジアのなかの日本』において、「地域の呼び方というものがいかに歴史的・相対的なものであるか」として、地誌叙述の単位となる近代の地域区分を自明視することに警鐘を鳴らした（飯塚、1960、p. 38）。

地理教育に関連した地誌の盛行に比して、「地誌の研究」の立ち遅れが指摘されたのもこの時期であった。竹内常行（早稲田大学）は「自然・人文の諸事象について相当高度の叙述のできる地理学者」の不足を問題視し、中野尊正（地理調査所）も「教養を身に付けたリージョナルスペシャリスト」の出現を待望した（浅香ほか、1959、p. 29-31）。地誌学の学問的發展を求めるこうした動きが、日本学術会議長朝永振一郎から内閣総理大臣佐藤栄作に対して1967（昭和42）年5月20日付でなされた、「総合地誌研究所（仮称）」設立の勧告につながることになる。そこでは、「世界の各地域における自然、人文、社会諸現象の関係を、地理学的に総合するような、近代的地誌学を確立すること」がめざされた（日本学術会議、1967、p. 159）。この勧告は1975年になって、広島大学文学部への総合地誌研究資料室の設置として実現した（広島大学総合地誌研究資料センター、2006）。

3-4) 地理教育

戦後の教育制度改革に伴う社会科の発足や新制高等学校における人文地理の科目化は、地理教育の研究と実践に大きな影響を与えた。1950（昭

和25）年に日本地理教育学会が設立され、1952年には機関誌『新地理』が創刊された。初代会長に就任した内田寛一（日本大学）は、初等中等教育の社会科における地理的内容の重要性に触れつつ、「世界的知識の向上発展」という国家的要請に地理教育が応えるべきとした（内田、1952、p. 1）。同学会は1955年に『新地理教育』を刊行し、「地理教育は人間の生活に即した地理的知識を習得せしめねばならない」とした（岩田、1955、p. 27）。これに対して、「地理教育革新のための同志」（西川、2014、p. 20）が結集して1957年に地理教育研究会が発足した。同研究会は1963年に『教師のための地理』を刊行し、「生産活動を中心に地域を学習する」ことや、「自然の持つ役割も生産の内面で正しく位置づける」ことを標榜した（地理教育研究会、1963、まえがき p. 4-5）。両団体の間では、「地理的知識」を重視するか「生産活動」を重視するかをめぐって立場の違いがみられた。

地理教育と地理学の関係について、岩田孝三（東京学芸大学）は地理教育を地理学の「応用学的な面」とした（岩田、1955、p. 27）。また三野与吉（東京教育大学）も、「地理教育は応用地理学の一つであり、教育上、地理素材を人文現象にとる方が好ましい」と述べた（三野、1955、p. 175）。地誌学は、こうした地理素材の供給源として重視されてきたが（石田ほか、1953；岩田、1955）、いかなる地理素材をどのような目的で用いるかに関しては、立場によって意見の違いがみられた。保柳睦美（文部省）は地理教育の目的を、「民主的日本の建設および世界平和への貢献」をめざす「有能な民主的社会人」の育成とした（保柳、1952、p. 9-10）。岩田孝三は、「祖国愛」の喚起や「世界の人類愛」の養成を地理教育の目的に含めている（岩田、1955、p. 27）。一方で入江敏夫（資源科学研究所）は、共著『地理教育の革新』のなかで、「他民族の抑圧に結びつくブルジョア的愛国心と、それと全く反対の国際主義につらなる愛国心」を区別し、「国土の姿をありのままに描いて…現在の「貧しさからの解放」はどうすればできるのかを考える材料を示す」ことが必要と主張

した(石田ほか, 1953, p. 30-31)。これに対して辻田右左男(奈良女子大学)は、「国土の美」の代わりに「失業者の群」や「貧民街」を教える地理教育の潮流に疑問を投げかけた(辻田, 1960, p. 461)。

地理教育のカリキュラムや歴史に関しても、注目すべき業績がみられた。菊地利夫(千葉大学)は中学校社会科のカリキュラムに関して、地理的分野、歴史的分野、政治・経済・社会的分野を年次進行で教える「3分野階層型」を批判し、同時進行で教える「3分野併立型」を提唱した(菊地, 1965)。鳥海 公(千葉大学教育学部附属中学校)も、菊地の指導に基づく自らの教育実践の結果として、「社会科の中の地理的分野を1年から3年まで継続させる」ことを主張した(鳥海, 1965, p. 58)。これらの意見表明が、1969年告示の中学校学習指導要領における地理的分野・歴史的分野・公民的分野の並行学習の原則化につながることになる。また、山本幸雄(東京教育大学附属中学校)は『地理教育史』を著して、明治維新以降90年間の地理教育の歴史を叙述して異彩を放った(山本, 1958)。

文 献

- 阿部和俊(2003): 20世紀の日本の都市地理学。古今書院。[Abe, K. (2003): *Urban Geography of Japan in the 20th Century*. Kokon Shoin. (in Japanese)]
- 秋岡武次郎(1955): 日本地図史。河出書房。[Akioka, T. (1955): *History of Cartography in Japan (Nihon Chizushi)*. Kawade Shobo. (in Japanese)*]
- 安藤萬壽男(1963): 日本の果樹。古今書院。[Ando, M. (1963): *Fruticulture in Japan (Nihon No Kaju)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 青野壽郎(1953): 漁村水産地理学研究(第1集・第2集)。古今書院。[Aono, H. (1953): *Studies in the Geography of Fishing Villages (Vol. I, Vol. II)*. Kokon Shoin. (in Japanese)]
- 有末武夫(1957): わが国における交通圏の型について—本邦旅客交通の地域的考察—。地理学評論, **30**, 1016-1030。[Arisue, T. (1957): A regional study of passenger traffic in Japan in special reference to a traffic community. *Geographical Review of Japan*, **30**, 1016-1030. (in Japanese with English abstract)]
- 浅香幸雄・入江敏夫・竹内常行・中野尊正(1959): 日本地誌の課題—論議の焦点—。地理, **4**(1), 9-40。[Asaka, Y., Irie, T., Takeuchi, J. and Nakano, T. (1959): Problems of regional geography of Japan—Focuses of debate—. *Geography (Chiri)*, **4**(1), 9-40. (in Japanese)*]
- 浅香幸雄・中田栄一・三友国五郎・矢嶋仁吉編(1960): 関東地方(日本地誌ゼミナール III)。大明堂。[Asaka, Y., Nakada, E., Mitomo, K. and Yajima, N. eds. (1960): *The Kanto Region (Seminar on the Regional Geography of Japan, III) (Kanto Chiho)*. Taimeido. (in Japanese)*]
- 鮎澤信太郎(1948): 地理学史の研究。愛日書院。[Ayu-sawa, S. (1948): *Studies in the History of Geography (Chirigakushi No Kenkyu)*. Aijitsu Shoin. (in Japanese)*]
- 鮎澤信太郎(1953): マテオ・リッチの世界図に関する史的研究—近世日本における世界地理知識の主流—。横浜市立大学紀要, **18**, 1-239。[Ayusawa, S. (1953): A historical research on Matteo Ricci's world map. *Journal of Yokohama Municipal University*, **18**, 1-239. (in Japanese with English abstract)]
- 別技篤彦(1960): 東南アジア諸島の居住と開発史—その地理学的考察—。古今書院。[Bekki, A. (1960): *Human Geographical Studies of Malaysia: Studies on Navigation Routes, Habitation and Land Exploitation of Malaysian Islands*. Kokon Shoin. (in Japanese)]
- Büdel, J. (1950): Das System der klimatischen Geomorphologie. *Tagungsbericht und Wissenschaftliche Abhandlungen Deutscher Geographentag München 1948*, 65-100.
- Büdel, J. (1977): *Klima-Geomorphologie*. Borntraeger.
- ビューデル, J. 著, 平川一臣訳(1985): 気候地形学。古今書院。[Büdel, J. (1985): *Climatic Geomorphology (Kiko Chikeigaku)* translated by Hirakawa, K., Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 千葉徳爾(1963): 地理学と日本民俗学との接点—故柳田国男氏の見解をととして—。人文地理, **15**, 292-305。[Chiba, T. (1963): Geography and Yanagida's studies in folk-lore. *Japanese Journal of Human Geography*, **15**, 292-305. (in Japanese)]
- 地理教育研究会(1963): 教師のための地理。河出書房新社。[Geographic Education Study Group (1963): *Geography for Teachers (Kyoshi No Tamen Chiri)*. Kawade Shobo Shinsha. (in Japanese)*]
- 中条純輔(1962): 古東京川について—音波探査による—。地球科学, **59**, 30-39。[Chujo, J. (1962): On the Paleo-Tokyo River—Prospected by the sonic prospecting—. *Earth Science (Chikyū Kagaku)*, **59**, 30-39. (in Japanese with English abstract)]
- 第四紀地殻変動研究グループ(1968): 第四紀地殻変動図。第四紀研究, **7**, 182-187。[Research Group for Quaternary Tectonic Map (1968): Quaternary tectonic map of Japan. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyū)*, **7**, 182-187. (in Japanese with English abstract)]
- Davis, W.M. (1912): *Die Erklärende Beschreibung der Landformen*. Teubner.
- 江波戸 昭(1965): 日本農業の地域分析。古今書院。[Ebato, A. (1965): *Regional Analysis of Japanese*

- Agriculture*. Kokon Shoin. (in Japanese with English abstract)]
- 江澤譲爾 (1954): 工業集積論—立地論の中心問題—. 時潮社. [Ezawa, J. (1954): *Studies on Industrial Agglomeration—Principal Issues in Location Theory—* (Kogyo Shuseki Ron). Jichosha. (in Japanese)*]
- 江澤譲爾 (1962): 産業立地論と地域分析. 時潮社. [Ezawa, J. (1962): *Industrial Location Theory and Regional Analysis* (Sangyo Ricchi Ron To Chiiki Bunseki). Jichosha. (in Japanese)*]
- 藤岡謙二郎 (1946): 地理と古代文化. 大八洲出版. [Fujioka, K. (1946): *Geography and Ancient Culture* (Chiri To Kodai Bunka). Oyashima Shuppan. (in Japanese)*]
- 藤岡謙二郎 (1955): 先史地域及び都市域の研究—地理学における地域変遷史的研究の立場—. 柳原書店. [Fujioka, K. (1955): *Studies on Ancient and Urban Regions—Regional History Perspectives in Geography—* (Senshi Chiiki Oyobi Toshi Iki No Kenkyu). Yanagihara Shoten. (in Japanese)*]
- 藤岡謙二郎 (1960): 都市と交通路の歴史地理学的研究—わが国律令時代における地方都市及び交通路の歴史地理学的研究の一試論—. 大明堂. [Fujioka, K. (1960): *Historical Geography of Cities and Traffic Routes—A Preliminary Investigations into the Historical Geography of Local Cities and Traffic Routes in Ancient Japan—* (Toshi To Kotsuro No Rekishi Chirigaku Teki Kenkyu). Taimeido. (in Japanese)*]
- 藤岡謙二郎編 (1961): 生駒山地の人文地理. 大阪教育図書. [Fujioka, K. ed. (1961): *Human Geography of the Ikoma Mountains Area* (Ikoma Sanchi No Jimbun Chiri). Osaka Kyoiku Toshosha. (in Japanese)*]
- 藤岡謙二郎編 (1964): 離島の人文地理—鹿児島県離島学術調査報告—. 大明堂. [Fujioka, K. ed. (1964): *Human Geography of Remote Islands: Scientific Reports of the Koshiki Islands, Kagoshima Prefecture* (Rito No Jimbun Chiri). Taimeido. (in Japanese)*]
- 藤沢繁樹・山澄 元 (1961): 人口ポテンシャルについての一考察. 人文地理, **13**, 34-42. [Fujisawa, S. and Yamazumi, H. (1961): Some comments on population potential. *Japanese Journal of Human Geography*, **13**, 34-42. (in Japanese with English abstract)]
- 深井三郎 (1956a): 立山連峯における氷蝕地形. 富山大学教育学部紀要, **5**, 79-98. [Fukai, S. (1956a): Studies of the glaciated landscapes in the Tateyama Mountains. *Memoirs of the Faculty of Education, Toyama University*, **5**, 79-98. (in Japanese)]
- 深井三郎 (1956b): 立山山麓の隆起扇状地. 地理学評論, **29**, 218-231. [Fukai, S. (1956b): Elevated fans along the foot of Mt. Tateyama, Toyama Prefecture. *Geographical Review of Japan*, **29**, 218-231. (in Japanese)]
- 深井三郎 (1956c): 常願寺川上流地域の地形発達史. 地理学評論, **29**, 428-438. [Fukai, S. (1956c): Geomorphological development of the area along the upper stream of the Joganji River. *Geographical Review of Japan*, **29**, 428-438. (in Japanese with English abstract)]
- 深井三郎 (1960): 飛騨山脈とその山麓地域の地形発達. 地理学評論, **33**, 247-268. [Fukai, S. (1960): The geomorphological development of the Hida Mountains and their circumjacent region. *Geographical Review of Japan*, **33**, 247-268. (in Japanese with English abstract)]
- 橋本誠二・熊野純男 (1955): 北部日高山脈の氷蝕地形. 地質学雑誌, **61**, 208-217. [Hashimoto, S. and Kumano, S. (1955): Zur Gletschertopographie im Hidaka-Gebirge, Hokkaido, Japan. *Journal of the Geological Society of Japan*, **61**, 208-217. (in Japanese with German abstract)]
- 羽鳥謙三・井口正男・貝塚爽平・成瀬 洋・杉村 新・戸谷 洋 (1962): 東京湾周辺における第四紀末期の諸問題. 第四紀研究, **2**, 69-90. [Hatori, K., Inokuchi, M., Kaizuka, S., Naruse, Y., Sugimura, A. and Toya, H. (1962): Latest Quaternary features of Tokyo Bay and its environs. *Quaternary Research* (Daiyonki Kenkyu), **2**, 69-90. (in Japanese with English abstract)]
- 服部銑二郎・加賀谷一良・稲永幸男 (1960): 東京周辺における地域構造. 地理学評論, **33**, 495-514. [Hattori, K., Kagaya, K. and Inanaga, S. (1960): The regional structure of surrounding areas of Tokyo. *Geographical Review of Japan*, **33**, 495-514. (in Japanese with English abstract)]
- 林 正己 (1961): 市町村の政治. 古今書院. [Hayashi, M. (1961): *Governance of Cities, Towns and Villages* (Shichoson No Seiji). Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 樋口節夫 (1963): 商業地域論—商業地域に関する比較地理—. 地人書房. [Higuchi, S. (1963): *Studies on Commercial Areas—A Comparative Geography of Commercial Areas—* (Shogyo Chiiki Ron). Chijin Shobo. (in Japanese)*]
- 広島大学総合地誌研究資料センター編 (2006): 広島大学総合地誌研究資料センター二十年の記録と記憶: 1986-2006. [Hiroshima University Research Center for Regional Geography ed. (2006): *Two-decade History of Research Center for Regional Geography, Hiroshima University: 1986-2006*. (in Japanese)]
- 堀川 侃 (1960): 人口分布の分析尺度. 人文地理, **12**, 381-392. [Horikawa, T. (1960): Measures of population distributions. *Japanese Journal of Human Geography*, **12**, 381-392. (in Japanese with English abstract)]
- 保柳睦美 (1952): 国際理解と社会科における地理教育. 古今書院. [Hoyanagi, M. (1952): *Geography Education in International Understanding and Social Studies* (Kokusai Rikai To Shakaika Ni Okeru Chiri Kyoiku). Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- Huzita, K. (1962): Tectonic development of the median zone (Setouti) of southwest Japan since the Miocene, with special reference to the characteristic structure of central Kinki area. *Journal of Geosciences*,

- Osaka City University, **6**, 103-144.
- 市瀬由自 (1957): 山崩れの地形学的考察—多摩川流域の場合—. 資源科学研究所彙報, **45**, 8-18. [Ichinose, Y. (1957): Geomorphological studies of landslides—In the case of the Tama Valley—. *Miscellaneous Reports of the Research Institute for Natural Resources*, **45**, 8-18. (in Japanese with English abstract)]
- 市瀬由自 (1960): 多良岳火山における山崩れ. 地理学評論, **33**, 515-528. [Ichinose, Y. (1960): On landslides at Tara volcano, northern Kyusyu. *Geographical Review of Japan*, **33**, 515-528. (in Japanese with English abstract)]
- 飯塚浩二 (1947): 地理学批判—社会科学の一部門としての地理学—. 帝国書院. [Iizuka, K. (1947): *Critique of Geography—Geography as a Branch of Social Science—* (Chirigaku Hihan). Teikoku Shoin. (in Japanese)*]
- 飯塚浩二 (1949): 人文地理学説史—方法論のための学説史的反省—. 日本評論社. [Iizuka, K. (1949): *An Intellectual History of Human Geography—Intellectual Historical Reflections Toward a Methodology—* (Jimbun Chiri Gakusetsushi). Nippon Hyoronsha. (in Japanese)*]
- 飯塚浩二編 (1955): 世界と日本—明日のための人文地理 (上)—. 大修館書店. [Iizuka, K. ed. (1955): *The World and Japan—Human Geography for Tomorrow (1)—* (Sekai To Nihon). Taishukan Shoten. (in Japanese)*]
- 飯塚浩二編 (1957): 世界と日本—明日のための人文地理 (下)—. 大修館書店. [Iizuka, K. ed. (1957): *The World and Japan—Human Geography for Tomorrow (2)—* (Sekai To Nihon). Taishukan Shoten. (in Japanese)*]
- 飯塚浩二 (1960): アジアのなかの日本. 中央公論社. [Iizuka, K. (1960): *Japan in Asia* (Asia No Nakano Nihon). Chuo Koronsha. (in Japanese)*]
- 池田俊雄 (1964): 東海道における沖積層の研究. 東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告, **60**, 1-85. [Ikeda, T. (1964): Study on the alluvial deposits of the Tokaido region. *Contributions from the Institute of Geology and Paleontology, Tohoku University*, **60**, 1-85. (in Japanese with English abstract)]
- 池田善昭 (1958): 政治地理学の現代的課題—経済地理学との理論的提携について—. 経済地理学年報, **4**, 36-43. [Ikeda, Y. (1958): Theoretical correlations between political geography and economic geography. *Annals of the Japan Association of Economic Geographers*, **4**, 36-43. (in Japanese)]
- 位野木寿一 (1959): 金毘羅灯籠の交通地理的意義. 人文地理, **11**, 195-214. [Inoki, K. (1959): A traffic-geographical inquiry of konpira lanterns. *Japanese Journal of Human Geography*, **11**, 195-214. (in Japanese with English abstract)]
- 五百沢智也 (1962): 檜・穂高連峰付近の最低位堆石堤について. 地理学評論, **35**, 652-653. [Iozawa, T. (1962): On the lowest moraine around the Yari-Hotaka Mountain Range. *Geographical Review of Japan*, **35**, 652-653. (in Japanese)*]
- 五百沢智也 (1963): 写真判読による日本アルプスの氷河地形. 地理学評論, **36**, 743. [Iozawa, T. (1963): Glacial landforms in the Japanese Alps revealed by aerial photo interpretation. *Geographical Review of Japan*, **36**, 743. (in Japanese)*]
- 入江敏夫編 (1957-1958): 新しい世界の地理 (全4冊). 日本評論新社. [Irie, T. ed. (1957-1958): *The New World Geographies (4 Vols.)* (Atarashii Sekai No Chiri). Nippon Hyoron Shinsha. (in Japanese)*]
- 井関弘太郎 (1956): 日本周辺の陸棚と沖積統基底面との関係について. 名古屋大学文学部研究論集, **14**, 85-102. [Iseki, H. (1956): Relationships between the basal surface of Holocene and continental shelf around Japan. *Journal of the Faculty of Letters, Nagoya University*, **14**, 85-102. (in Japanese)*]
- 井関弘太郎 (1962): 沖積平野研究の基礎的問題点. 名古屋大学文学部研究論集, **26**, 51-74. [Iseki, H. (1962): Fundamental problems of recent alluvial plains. *Journal of the Faculty of Letters, Nagoya University*, **26**, 51-74. (in Japanese)*]
- 石田龍次郎 (1956): 地理学の社会化へ. 地理, **1**(1), 9-21. [Ishida, R. (1956): Toward the socialization of geography. *Geography (Chiri)*, **1**(1), 9-21. (in Japanese)*]
- 石田龍次郎・渡辺 光編 (1951-1952): 世界地理大系 (全7巻). 河出書房. [Ishida, R. and Watanabe, A. eds. (1951-1952): *World Geography Series (7 Vols.)* (Sekai Chiri Taikei). Kawade Shobo. (in Japanese)*]
- 石田龍次郎・入江敏夫・小堀 巖・馬場四郎・大村 栄 (1953): 地理教育の革新. 同社. [Ishida, R., Irie, T., Kobori, I., Baba, S. and Omura, S. (1953): *Reforming Geography Education* (Chiri Kyoiku No Kaku-shin). Dogakusha. (in Japanese)*]
- 石原 潤 (1965): 集落形態と村落共同体—特に讃岐の事例を中心に—. 人文地理, **17**, 38-64. [Ishihara, H. (1965): Settlement form and rural community. *Japanese Journal of Human Geography*, **17**, 38-64. (in Japanese with English abstract)]
- 石川栄吉 (1951): 文化圏序説—文化史的民族学の弁明と批判を通じて—. 人文地理, **3**(3), 50-62. [Ishikawa, E. (1951): A study of cultural sphere. *Japanese Journal of Human Geography*, **3**(3), 50-62. (in Japanese with English abstract)]
- 石川栄吉 (1955): 地理学と人類学の間—人種地理学の反省—. 人文地理, **7**, 310-322. [Ishikawa, E. (1955): Recent problems of racial geography. *Japanese Journal of Human Geography*, **7**, 310-322. (in Japanese)*]
- 石水照雄 (1962): 本邦地理学界における都市化研究の現段階. 地理学評論, **35**, 362-373. [Ishimizu, T. (1962): The present status of urbanization studies in Japanese academic circles of geographers. *Geographical Review of Japan*, **35**, 362-373. (in Japanese)*]

- nese with English abstract)]
- 市原 実・木越邦彦 (1960): 大阪沖積層基底より産出した木材の絶対年代. 地球科学, **52**, 18. [Itihara, M. and Kigoshi, K. (1960): Absolute chronology of fossil-wood found at the base of the recent deposits, Osaka. *Earth Science (Chikyu Kagaku)*, **52**, 18. (in Japanese with English abstract)]
- 岩田孝三 (1953): 境界政治地理学—わが国, 国界藩界に就いての政治地理学的研究—. 帝国書院. [Iwata, K. (1953): *The Political Geography of Boundaries—Studies in the Political Geography of the Boundaries of Countries and Feudal Domains in Japan—* (Kyokai Seiji Chirigaku). Teikoku Shoin. (in Japanese)*]
- 岩田孝三 (1955): 地理教育とは何か—地理学と地理教育—. 日本地理教育学会編: 新地理教育. 金子書房, 1-42. [Iwata, K. (1955): What is geographic education?—Geography and geographic education—. in *New Geographic Education (Shin Chiri Kyoiku)* edited by Geographic Education Society of Japan, Kaneko Shobo, 1-42. (in Japanese)*]
- 岩塚守公 (1952): 関東山地周辺及びそれに続く第三系丘陵に存在する侵蝕平坦面地形について. 地理学評論, **25**, 56-62. [Iwatsuka, S. (1952): The erosional surfaces remaining in the marginal place of Kanto Mountainland and in the hills, adjacent to Kanto Mountainland. *Geographical Review of Japan*, **25**, 56-62. (in Japanese with English abstract)]
- 岩塚守公 (1954): 全国の国鉄沿線に発生した斜面崩壊の自然地理学的研究. 東京大学地理学研究, **3**, 97-114. [Iwatsuka, S. (1954): The physiographical study on landslides and land-creeps which occurred in the surrounding area along all of railroads which belong to the Japanese national railways. *Bulletin of the Geographical Institute, University of Tokyo*, **3**, 97-114. (in Japanese with English abstract)]
- 岩塚守公・町田 洋 (1962): 富士山大沢の発達—火山の谷の発達と侵蝕機構についての基礎的研究—. 地学雑誌, **71**, 143-158. [Iwatsuka, S. and Machida, H. (1962): The development of Osawa Valley, Mt. Fuji—The fundamental study on the development of radial valleys on volcano—. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **71**, 143-158. (in Japanese with English abstract)]
- 人文地理学会編 (1955): 地域調査. 柳原書店. [Human Geographical Society of Japan ed. (1955): *Regional Survey (Chiiki Chosa)*. Yanagihara Shoten. (in Japanese)*]
- 人文地理学会編 (1998): 人文地理学会 50 年史. [Human Geographical Society of Japan ed. (1998): *Fifty Years History of the Human Geographical Society of Japan (Jimbun Chiri Gakkai 50 Nenshi)*. (in Japanese)*]
- 寿円晋吾 (1965a): 多摩川流域における武蔵野台地の段丘地形の研究—一段丘傾動量算定の一例— (その一). 地理学評論, **38**, 557-571. [Juen, S. (1965a): A study of the terrace topography of the Musashino Upland along the River Tama. *Geographical Review of Japan*, **38**, 557-571. (in Japanese with English abstract)]
- 寿円晋吾 (1965b): 多摩川流域における武蔵野台地の段丘地形の研究—一段丘傾動量算定の一例— (その二). 地理学評論, **38**, 591-612. [Juen, S. (1965b): A study of the terrace topography of the Musashino Upland along the River Tama. *Geographical Review of Japan*, **38**, 591-612. (in Japanese with English abstract)]
- 門村 浩 (1965): 航空写真による軟弱地盤の判読 (第1報)—微地形の系統のおよび計測的分析による判読法の適用について— (1). 写真測量, **4**, 182-191. [Kadomura, H. (1965): Aerial photographic interpretation of soft ground (Part 1)—An application of the systematic and morphometric analysis of microgeomorphological features by aerial photographs to engineering soil surveys and soft ground investigations—(1). *Journal of the Japan Society of Photogrammetry*, **4**, 182-191. (in Japanese with English abstract)]
- 門村 浩 (1966): 航空写真による軟弱地盤の判読 (第1報)—微地形の系統のおよび計測的分析による判読法の適用について— (2). 写真測量, **5**, 10-25. [Kadomura, H. (1966): Aerial photographic interpretation of soft ground (Part 1)—An application of the systematic and morphometric analysis of microgeomorphological features by aerial photographs to engineering soil surveys and soft ground investigations—(2). *Journal of the Japan Society of Photogrammetry*, **5**, 10-25. (in Japanese with English abstract)]
- 貝塚爽平 (1955): 関東南岸の陸棚形成時代に関する一考察. 地理学評論, **28**, 15-26. [Kaizuka, S. (1955): On the age of submarine shelves of southern Kanto. *Geographical Review of Japan*, **28**, 15-26. (in Japanese with English abstract)]
- 貝塚爽平 (1956): 十勝平野の地形に関する若干の資料—とくに低位段丘および火山灰について—. 地理学評論, **29**, 232-239. [Kaizuka, S. (1956): Preliminary report on the geomorphology of Tokachi Plain, Hokkaido. *Geographical Review of Japan*, **29**, 232-239. (in Japanese)]
- 貝塚爽平 (1958): 関東平野の地形発達史. 地理学評論, **31**, 59-85. [Kaizuka, S. (1958): Landform evolution of the Kanto Plain. *Geographical Review of Japan*, **31**, 59-85. (in Japanese with English abstract)]
- 貝塚爽平編 (1985): 写真と図で見る地形学. 東京大学出版会. [Kaizuka, S. ed. (1985): *Geomorphology Illustrated*. University of Tokyo Press. (in Japanese)]
- 貝塚爽平・町田 貞・太田陽子・阪口 豊・杉村 新・吉川虎雄 (1963): 日本地形論 (上). 地学団体研究会. [Kaizuka, S., Machida, T., Ota, Y., Sakaguchi, Y., Sugimura, A. and Yoshikawa, T. (1963): *Geomorphology of Japan (First Volume)* (Nihon Chikei

- Ron). Chigaku Dantai Kenkyukai. (in Japanese)*]
- 鴨澤 巖 (1960): 経済地理学ノート. 法政大学出版局. [Kamozawa, I. (1960): *Notes on Economic Geography (Keizai Chirigaku Note)*. Hosei University Press. (in Japanese)*]
- 関東ローム研究グループ編 (1965): 関東ローム—その起原と性状—. 築地書館. [Kanto Loam Research Group ed. (1965): *The Kanto Loam—Its Origin and Characteristics— (Kanto Loam)*. Tsukiji Shokan. (in Japanese)*]
- 春日茂男 (1962): 農業立地と工業立地—その空間秩序—. 人文地理, **14**, 1-20. [Kasuga, S. (1962): Agricultural and industrial locations: Their spatial order. *Japanese Journal of Human Geography*, **14**, 1-20. (in Japanese with English abstract)]
- 河辺 宏 (1961): 日本の国内人口移動: 1950-1955—市部・郡部の考察—. 地理学評論, **34**, 96-108. [Kawabe, H. (1961): The internal migration of Japan: 1950-55. *Geographical Review of Japan*, **34**, 96-108. (in Japanese with English abstract)]
- 河辺 宏 (1964): 人口地理学についての一考察. 地理学評論, **37**, 1-13. [Kawabe, H. (1964): Some consideration on population geography. *Geographical Review of Japan*, **37**, 1-13. (in Japanese with English abstract)]
- 川喜田二郎 (1956): 文化の地理学, もしくは文化の生態学—チベット文化の場合—. 人文研究, **7**, 989-1004. [Kawakita, J. (1956): Geography of culture, or ecology of culture: The case of Tibetan culture. *Studies in the Humanities*, **7**, 989-1004. (in Japanese)]
- 川喜田二郎 (1958): アジアの文化領域についての最近の論争. 人文地理, **10**, 142-152. [Kawakita, J. (1958): Recent problems of cultural areas of Asia. *Japanese Journal of Human Geography*, **10**, 142-152. (in Japanese)]
- Kawamoto, C. (1957): A study of regional structure as seen from farmer emigration in the Tohoku district (1). *Annual Report of the College of Liberal Arts, University of Iwate*, **11**(1), 47-66.
- Kawamoto, C. (1958): A study of regional structure as seen from farmer emigration in the Tohoku district (2). *Annual Report of the College of Liberal Arts, University of Iwate*, **13**(1), 71-79.
- Kawamoto, C. (1960): A study of regional structure as seen from farmer emigration in the Tohoku district (3): Types of wandering and the structure of region. *Annual Report of the College of Liberal Arts, University of Iwate*, **16**(1), 79-99.
- 川島哲郎 (1955): 経済地域について—経済地理学の方法論的反省との関連において—. 経済学雑誌, **32**(3/4), 1-35. [Kawashima, T. (1955): On the economic region: In relation to the methodological problems of economic geography. *Journal of Economics*, **32**(3/4), 1-35. (in Japanese)]
- 川島哲郎 (1963): 日本工業の地域的構成—とくにその局地的集積・集中の問題を中心に—. 経済学雑誌, **48**(4), 19-59. [Kawashima, T. (1963): The regional structure of Japanese industry: A contribution to the problem of regional concentration and centralization of industry. *Journal of Economics*, **48**(4), 19-59. (in Japanese)]
- 経済地理学会編 (2003): 経済地理学会 50 年史. [Japan Association of Economic Geographers ed. (2003): *Fifty Years History of the Japan Association of Economic Geographers (Keizai Chiri Gakkai 50 Nenshi)*. (in Japanese)*]
- Gigoshi, K., Tomikura, Y. and Endo, K. (1962): Gakushuin natural radiocarbon measurements I. *Radiocarbon*, **4**, 84-94.
- 木地節郎 (1958): 小売商圈の研究. 高城書店. [Kiji, S. (1958): *A Study on Retail Trade Areas (Kouri Shoken No Kenkyu)*. Takagi Shoten. (in Japanese)*]
- 菊地利夫 (1958a): 新田開発 (上巻). 古今書院. [Kikuchi, T. (1958a): *Paddy Field Reclamation (Vol. I) (Shinden Kaihatsu Jo Kan)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 菊地利夫 (1958b): 新田開発 (下巻). 古今書院. [Kikuchi, T. (1958b): *Paddy Field Reclamation (Vol. II) (Shinden Kaihatsu Ge Kan)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 菊地利夫 (1959): 紀要第一号を刊行するにあたって. 歴史地理学紀要, **1**. [Kikuchi, T. (1959): On the occasion of launching the first issue of the bulletin. *Bulletin of Historical Geography (Rekishi Chirigaku Kiyo)*, **1**. (in Japanese)*]
- 菊地利夫 (1965): 社会科地理教育の改善とその提案—3 分野階層型から 3 分野併立型へ—. 新地理, **13**(2), 1-17. [Kikuchi, T. (1965): On problems of the teaching method of geographical curriculum in the lower high school. *New Geography*, **13**(2), 1-17. (in Japanese)]
- 木村辰男 (1963): 貨物運賃の地理的性格—等運賃線の問題を中心に—. 人文地理, **15**, 269-291. [Kimura, T. (1963): Some regional aspects of freight rates. *Japanese Journal of Human Geography*, **15**, 269-291. (in Japanese with English abstract)]
- 岸本 実 (1961): 人口地理学の展望. 人文地理, **13**, 450-464. [Kishimoto, M. (1961): Recent studies in population geography. *Japanese Journal of Human Geography*, **13**, 450-464. (in Japanese)]
- 喜多村俊夫 (1950): 日本灌漑水利慣行の史的研究 総論篇. 岩波書店. [Kitamura, T. (1950): *Historical Studies on Irrigation Customs in Japan: General Remarks (Nihon Kangai Suiri Kanko No Shiteki Kenkyu Soron Hen)*. Iwanami Shoten. (in Japanese)*]
- 木内信蔵 (1951): 都市地理学研究. 古今書院. [Kiuchi, S. (1951): *Urban Geography: The Structure and Development of Urban Areas and Their Hinterlands*. Kokon Shoin. (in Japanese)]
- 木内信蔵・藤岡謙二郎・矢嶋仁吉編 (1957-1959): 集落地理講座 (全 4 巻). 朝倉書店. [Kiuchi, S., Fujioka, K. and Yajima, N. eds. (1957-1959): *Lecture*

- Series in Settlement Geography (4 Vols.) (Shuraku Chiri Koza)*. Asakura Shoten. (in Japanese)*]
- 木内信蔵・山鹿誠次・清水馨八郎・稲永幸男 (1964): 日本の都市化. 古今書院. [Kiuchi, S., Yamaga, S., Shimizu, K. and Inanaga, S. (1964): *Urbanization in Japan (Nihon No Toshika)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 小崎 尚 (1965): 大雪山火山群の構造土. 地理学評論, **38**, 179-199. [Koaze, T. (1965): The patterned grounds on the Daisetsu volcanic group, central Hokkaido. *Geographical Review of Japan*, **38**, 179-199. (in Japanese with English abstract)]
- 小崎 尚 (1988): 第四紀後半の日本の山地の地形形成環境. 第四紀研究, **26**, 255-263. [Koaze, T. (1988): Morphogenetic environments of Japanese mountains in the late Quaternary. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyu)*, **26**, 255-263. (in Japanese with English abstract)]
- 小林 博 (1957): メトロポリタン・エリアに関する若干の問題. 人文地理, **9**, 383-394. [Kobayashi, H. (1957): Some geographical aspects of metropolitan area. *Japanese Journal of Human Geography*, **9**, 383-394. (in Japanese)]
- Kobayashi, K. (1958): Quaternary glaciation of the Japan Alps. *Journal of the Faculty of Liberal Arts and Science, Shinshu University, Part 2, Natural Science*, **8**, 13-67.
- 小林国夫 (1962): 日本の Würm 氷期における Accumulation Terracing の問題. 第四紀研究, **2**, 91-99. [Kobayashi, K. (1962): Discussions on the possibility of the Würmian accumulation terracing in Japan. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyu)*, **2**, 91-99. (in Japanese with English abstract)]
- Kobayashi, K. and Mori, Y. (1956): Preliminary report of the patterned ground on Ontake Volcano, Central Japan. *Journal of the Faculty of Liberal Arts and Science, Shinshu University*, **6**, 11-27.
- 小出 博 (1955): 日本の地汜り—その予知と対策—. 東洋経済新報社. [Koide, H. (1955): *Landslides in Japan—Prediction and Adaptation— (Nihon No Jisuberi)*. Toyo Keizai Shimposha. (in Japanese)*]
- Kuno, H. (1950): Geology of Hakone volcano and adjacent areas, part 1. *Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo, Section 2 (Geology, Mineralogy, Geography, Seismology)*, **7**, 257-279.
- Kuno, H. (1951): Geology of Hakone volcano and adjacent areas, part 2. *Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo, Section 2 (Geology, Mineralogy, Geography, Seismology)*, **7**, 351-402.
- 黒田和男 (1962): 空中写真探査とその日本における適用条件. 応用地質, **3**, 30-36. [Kuroda, K. (1962): On applicabilities of aerial photographic methods for geologic problems in Japan. *Journal of the Japan Society of Engineering Geology*, **3**, 30-36. (in Japanese with English abstract)]
- 黒田和男 (1966): 地すべり地と地質構造の因果関係について. 地学雑誌, **75**, 123-135. [Kuroda, K. (1966): Preliminary study on the geological characteristics of the landslide provinces in Japan. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **75**, 123-135. (in Japanese with English abstract)]
- 町田 洋 (1959): 安倍川上流部の堆積段丘—荒廃山地にみられる急速な地形変化の1例—. 地理学評論, **32**, 520-531. [Machida, H. (1959): On the accumulation terrace in the upper reaches of the River Abe. *Geographical Review of Japan*, **32**, 520-531. (in Japanese with English abstract)]
- 町田 洋 (1962): 荒廃河川における侵蝕過程—常願寺川の場合—. 地理学評論, **35**, 157-174. [Machida, H. (1962): Erosional development in the torrential river—A case study of the River Joganji in Toyama Prefecture—. *Geographical Review of Japan*, **35**, 157-174. (in Japanese with English abstract)]
- 町田 洋 (1964a): Tephrochronology による富士火山とその周辺地域の発達史—第四紀末期について—(その1). 地学雑誌, **73**, 293-308. [Machida, H. (1964a): Tephrochronological study of Volcano Fuji and adjacent areas. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **73**, 293-308. (in Japanese with English abstract)]
- 町田 洋 (1964b): Tephrochronology による富士火山とその周辺地域の発達史—第四紀末期について—(その2). 地学雑誌, **73**, 337-350. [Machida, H. (1964b): Tephrochronological study of Volcano Fuji and adjacent areas. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **73**, 337-350. (in Japanese with English abstract)]
- 町田 貞 (1950): 碓氷川南岸地域の地形—河岸段丘面と侵蝕面との高度関係—. 地理学評論, **23**, 285-292. [Machida, T. (1950): Geomorphology of the region to the south-side of Usui River—Relation between the altitude of terrace-plains and of the erosion surface—. *Geographical Review of Japan*, **23**, 285-292. (in Japanese with English abstract)]
- 町田 貞 (1963): 河岸段丘—その地形学的研究—. 古今書院. [Machida, T. (1963): *River Terraces—A Geomorphological Study— (Kagan Dankyu)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 町田 貞・大倉陽子 (1960): 豊川中・下流地域の段丘地形. 地理学評論, **33**, 551-563. [Machida, T. and Okura, Y. (1960): River terraces and earth movement along the River Toyo. *Geographical Review of Japan*, **33**, 551-563. (in Japanese with English abstract)]
- 正井泰夫 (1962): アメリカの最近の人文地理学研究法における定量化傾向. 地学雑誌, **71**, 111-118. [Masai, Y. (1962): Quantification in techniques of recent American human geography: Its status in the methodology of geography. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **71**, 111-118. (in Japanese with English abstract)]
- 松田 信 (1961): 生活様式論再考. 人文地理, **13**, 501-520. [Matsuda, M. (1961): Some notes on “genres de vie” (modes of life). *Japanese Journal of*

- Human Geography*, **13**, 501-520. (in Japanese with English abstract)]
- 松田 信 (1965): 景観と生活様式. 人文地理, **17**, 113-133. [Matsuda, M. (1965): Some notes on landscape (paysage) and mode of life (genre de vie). *Japanese Journal of Human Geography*, **17**, 113-133. (in Japanese with English abstract)]
- 松井 健・加藤芳朗 (1962): 日本の赤色土壌の生成時期・生成環境にかんする二, 三の考察. 第四紀研究, **2**, 161-179. [Matsui, T. and Kato, Y. (1962): Notes on palaeopedology of red soils in Japan. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyu)*, **2**, 161-179. (in Japanese with English abstract)]
- 松井 健・杉村 新・渡辺直経 (1977): 日本第四紀学会史. 日本第四紀学会編: 日本の第四紀研究—その発展と現状—. 東京大学出版会, 1-9. [Matsui, T., Sugimura, A. and Watanabe, N. (1977): History of the Japan Association for Quaternary Research. in *The Quaternary Period: Recent Studies in Japan* edited by Japan Association for Quaternary Research, University of Tokyo Press, 1-9. (in Japanese)]
- 三野与吉 (1942): 地形原論—岩石床説より観たる準平原論—. 古今書院. [Mino, Y. (1942): *Basic Theory of Landforms—Peneplain Theory Viewed from Rock Floor Hypothesis (Chihei Genron)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 三野与吉 (1952): 日本における山頂平坦面の形成型式. 地理学評論, **25**(別冊), 31. [Mino, Y. (1952): Formation of mountain-top flat surfaces in Japan. *Geographical Review of Japan*, **25**(extra issue), 31. (in Japanese)*]
- 三野与吉 (1955): 地理の本質と地理教育. 古今書院. [Mino, Y. (1955): *The Essence of Geography and Geographic Education (Chiri No Honshitsu To Chiri Kyoiku)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- Mizuoka, F. (1983): The development of Marxian economic geography in Japan. *Antipode*, **15**(3), 27-36.
- 望月勝海 (1947): 地学・地質学・地理学. 目黒書店. [Mochizuki, K. (1947): *Geoscience, Geology and Geography (Chigaku, Chishitsugaku, Chirigaku)*. Meguro Shoten. (in Japanese)*]
- 森 鹿三・織田武雄編 (1957-1959): 歴史地理講座 (全3巻). 朝倉書店. [Mori, S. and Oda, T. eds. (1957-1959): *Lecture Series in Historical Geography (3 Vols.) (Rekishu Chiri Koza)*. Asakura Shoten. (in Japanese)*]
- 森川 洋 (1959a): 広島県における中心集落の分布とその遷移. 地理学評論, **32**, 595-613. [Morikawa, H. (1959a): Verteilung der zentralen Siedlungen und ihre Entwicklung im Regierungsbezirk Hiroshima. *Geographical Review of Japan*, **32**, 595-613. (in Japanese with German abstract)]
- 森川 洋 (1959b): 低需要地域における中心地構造—島根県邑智郡を例として—. 人文地理, **11**, 525-544. [Morikawa, H. (1959b): Some characteristics of the structure of central places in the low regional demand area: An example of Ochi-gun in central Shimane Prefecture. *Japanese Journal of Human Geography*, **11**, 525-544. (in Japanese with English abstract)]
- 村松繁樹 (1962): 日本集落地理の研究. ミネルヴァ書房. [Muramatsu, S. (1962): *Studies in the Geography of Settlements in Japan (Nihon Shuraku Chiri No Kenkyu)*. Minerva Shobo. (in Japanese)*]
- 室賀信夫・海野一隆 (1957): 日本に行われた仏教系世界図について. 地理学史研究, **1**, 69-141. [Muroga, N. and Unno, K. (1957): On the Buddhist world maps circulated in Japan. *Studies in the History of Geography (Chirigakushi Kenkyu)*, **1**, 69-141. (in Japanese)*]
- Muroga, N. and Unno, K. (1962): The Buddhist world map in Japan and its contact with European maps. *Imago Mundi*, **16**, 49-69.
- 中田 榮一 (2008): 歴史地理学会, その創始の頃の想い出. 歴史地理学, **239**, 23-25. [Nakada, E. (2008): A memoir of the founding years of the Association of Historical Geographers in Japan. *Historical Geography*, **239**, 23-25. (in Japanese)*]
- Nakagawa, H. (1960): On the cuesta topography of the Boso Peninsula, Chiba Prefecture, Japan. *Science Reports of Tohoku University, 2nd Series (Geology), Special Volume*, **4**, 385-391.
- 中島義一 (1964): 市場集落. 古今書院. [Nakajima, G. (1964): *Marketplace Settlements (Ichiba Shuraku)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 中村一明 (1963): 伊豆大島火山の噴火史—火山の tephrochronology—. 科学, **33**, 141-147. [Nakamura, K. (1963): Eruption history of Izu-Oshima—Tephrochronology of volcanoes—. *Science Journal Kagaku*, **33**, 141-147. (in Japanese)*]
- 中村一明・荒牧重雄・村井 勇 (1963): 火山の噴火と堆積物の性質. 第四紀研究, **3**, 13-30. [Nakamura, K., Aramaki, S. and Murai, I. (1963): Volcanic eruption and nature of the pyroclastic deposits. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyu)*, **3**, 13-30. (in Japanese with English abstract)]
- Nakamura, Y. (1964): Relief distribution in the northern part of the Kitakami Mountains. *Science Reports of Tohoku University, 7th Series (Geography)*, **13**, 115-133.
- 中野尊正 (1952): Land Form Type 地形型の考え—高知平野を例として—. 地理学評論, **25**, 127-133. [Nakano, T. (1952): Land form type—An example of Kochi Plain—. *Geographical Review of Japan*, **25**, 127-133. (in Japanese with English abstract)]
- 中野尊正 (1956): 日本の平野—沖積平野の研究—. 古今書院. [Nakano, T. (1956): *Plains in Japan—Studies on Alluvial Plains— (Nihon No Heiya)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 中野尊正・武久義彦 (1960): 新潟の地盤沈下. 地理学評論, **33**, 1-9. [Nakano, T. and Takehisa, Y. (1960): The ground subsidence in the Niigata Plain. *Geographical Review of Japan*, **33**, 1-9. (in Japanese with English abstract)]

- 奈良女子大学地理学教室編 (1961): 奈良盆地. 古今書院. [Nara Women's University Geography Department ed. (1961): *Nara Basin (Nara Bonchi)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 成田孝三 (1965): 「農業集落」の有意性. 人文地理, **17**, 314-324. [Narita, K. (1965): Examination of "agricultural settlement" as a unit of the region. *Japanese Journal of Human Geography*, **17**, 314-324. (in Japanese)]
- 日本地誌研究所編 (1967-1980): 日本地誌 (全 21 巻). 二宮書店. [Institute for the Regional Geography of Japan ed. (1967-1980): *Regional Geography of Japan (21 Vols.) (Nihon Chishi)*. Ninomiya Shoten. (in Japanese)*]
- 日本学術会議 (1967): 勧告・声明集 第 4 集 (第 7 期の 1). 日本学術会議. [Science Council of Japan (1967): *Advices and Statements Vol. 4 (7th Series, Part 1) (Kankoku Seimei Shu)*. Science Council of Japan. (in Japanese)*]
- 西川大二郎 (2014): 私と経済地理学. 藤田佳久・阿部和俊編: 日本の経済地理学 50 年. 古今書院, 11-27. [Nishikawa, D. (2014): Economic geography and I. in *Fifty Years of Economic Geography in Japan (Nihon No Keizai Chirigaku 50 Nen)* edited by Fujita, Y. and Abe, K., Kokon Shoin, 11-27. (in Japanese)*]
- 西川 治 (1952): 地理学における動態的研究. 人文地理, **4**, 142-155. [Nishikawa, O. (1952): Dynamic study of geography. *Japanese Journal of Human Geography*, **4**, 142-155. (in Japanese)]
- 西川 治 (1954): 農村集落の人文生態学的研究. 東京大学地理学研究, **3**, 51-96. [Nishikawa, O. (1954): A human ecological study of Japanese rural settlement. *Bulletin of the Geographical Institute, Tokyo University*, **3**, 51-96 (in Japanese with English abstract)]
- Nishimura, K. (1963): Chugoku Mountains as a staircase morphology. *Science Reports of Tohoku University, 7th Series (Geography)*, **12**, 1-19.
- 野上道男 (1964): 十勝平野の低位段丘の調査から知り得た海面変化と地形発達史の関係. 地理学評論, **37**, 271-272. [Nogami, M. (1964): Relationships between geomorphic development and sea-level changes inferred by survey of lower terraces in the Tokachi Plain. *Geographical Review of Japan*, **37**, 271-272. (in Japanese)*]
- 能 登志雄 (1949): 現代の地誌学. 古今書院. [Noh, T. (1949): *Contemporary Regional Geography (Gendai No Chishigaku)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 野間三郎編 (1961): 生態地理学. 朝倉書店. [Noma, S. ed. (1961): *Ecological Geography (Seitai Chirigaku)*. Asakura Shoten. (in Japanese)*]
- 野間三郎 (1963): 近代地理学の潮流—形態学から生態学へ—. 大明堂. [Noma, S. (1963): *Currents in Modern Geography—From Morphology to Ecology— (Kindai Chirigaku No Choryu)*. Taimeido. (in Japanese)*]
- 織田武雄 (1959a): 人文地理学会の 10 年間の回顧. 人文地理, **10**, 317-320. [Oda, T. (1959a): A retrospect of ten years of the Human Geographical Society of Japan. *Japanese Journal of Human Geography*, **10**, 317-320. (in Japanese)*]
- 織田武雄 (1959b): 古代地理学史の研究—ギリシア時代—. 柳原書店. [Oda, T. (1959b): *Studies in the History of Ancient Geography—The Greek Era— (Kodai Chirigakushi No Kenkyu)*. Yanagihara Shoten. (in Japanese)*]
- 小田内通敏 (1951): 人文地理学への歩み—方法論とその実践への結合の提唱—. 人文地理, **3**(3), 1-11. [Odauchi, T. (1951): My stepping for human geography. *Japanese Journal of Human Geography*, **3**(3), 1-11. (in Japanese with English abstract)]
- 小川 徹 (1953): 社会・人文現象の地域論における社会環境の機能に関する一図式. 人文地理, **5**, 83-93. [Ogawa, T. (1953): A scheme on the function of social environment (milieu social) in a study of regional structures of the social and human phenomena. *Japanese Journal of Human Geography*, **5**, 83-93. (in Japanese with English abstract)]
- 小原敬士 (1950): 社会地理学の基礎理論. 古今書院. [Ohara, K. (1950): *Basic Theories in Social Geography (Shakai Chirigaku No Kiso Riron)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 小原敬士 (1965): 近代資本主義の地理学. 大明堂. [Ohara, K. (1965): *The Geography of Modern Capitalism (Kindai Shihon Shugi No Chirigaku)*. Taimeido. (in Japanese)*]
- 岡 重文 (1964): 山形県新庄市西方山地の地すべり地形について—地すべり地形の空中写真判読—. 写真測量, **3**, 70-79. [Oka, S. (1964): Geomorphological investigations of the Mogami landslide province, west of Shinjo, Mogami-gun, Yamagata Prefecture—Use of aerial photographs in studies of landslides—. *Journal of the Japan Society of Photogrammetry*, **3**, 70-79. (in Japanese with English abstract)]
- 岡本兼佳 (1963): 農業地理学. 明玄書房. [Okamoto, K. (1963): *Agricultural Geography (Nogyo Chirigaku)*. Meigen Shobo. (in Japanese)*]
- 岡山俊雄 (1953): 日本の地形構造—地形誌の出発点として—. 駿台史学, **3**, 28-38. [Okayama, T. (1953): Geomorphic structure of Japan—As a prelude to regional geomorphology—. *Journal of the Historico-Geographical Association of Meiji University*, **3**, 28-38. (in Japanese)*]
- 岡山俊雄 (1961): 日本の地形構造と地質構造の関係. 辻村太郎先生古稀記念事業会編: 辻村太郎先生古稀記念地理学論文集. 古今書院, 50-69. [Okayama, T. (1961): Relationships between geomorphic and geologic structures of Japan. in *Geographical Essays in Commemoration of the 70th Birthday of Professor Taro Tsujimura (Tsujimura Taro Sensei Koki Kinen Chirigaku Rombunshu)* edited by Commemorative Group for the 70th Birthday of Professor Taro Tsujiura, Kokon Shoin, 50-69. (in Japanese)*]
- 岡崎セツ子 (1967): 日本各地の山地内に認められる浸

- 食平坦面の性質とその成因に対する考察。お茶の水女子大学人文科学紀要, **20**, 193-204. [Okazaki, S. (1967): A consideration on the characteristics and genesis of the eroded flat surfaces found in the mountain lands of non-volcanic area in Japan. *Ochanomizu University Studies in Arts and Culture*, **20**, 193-204. (in Japanese with English abstract)]
- 小野有五・平川一臣 (1975): ヴェルム氷期における日高山脈周辺の地形形成環境。地理学評論, **48**, 1-26. [Ono, Y. and Hirakawa, K. (1975): Glacial and periglacial morphogenetic environments around the Hidaka Range in the Würm glacial age. *Geographical Review of Japan*, **48**, 1-26. (in Japanese with English abstract)]
- 太田 勇 (1962): 岳南地方の工業化。地理学評論, **35**, 427-442. [Ota, I. (1962): Industrialization of the Gakunan pulp and paper industry district, Shizuoka Prefecture. *Geographical Review of Japan*, **35**, 427-442. (in Japanese with English abstract)]
- 太田陽子 (1964): 大佐渡沿岸の海岸段丘。地理学評論, **37**, 226-242. [Ota, Y. (1964): Coastal terraces of the Sado Island, Japan. *Geographical Review of Japan*, **37**, 226-242. (in Japanese with English abstract)]
- 大塚弥之助 (1931): 第四紀。岩波書店。[Otsuka, Y. (1931): *The Quaternary Period (Daiyonki)*. Iwanami Shoten. (in Japanese)*]
- 大矢雅彦 (1956): 木曽川流域濃尾平野水害地形分類図。総理府資源調査会。[Oya, M. (1956): *Reconnaissance Topographical Survey Map of Lower Part of the Kiso River Basin*. Resources Council of the Prime Minister's Office. (in Japanese)]
- 大矢雅彦 (1960): 狩野川中・下流域水害地形分類図。地理学評論, **33**, 156-162. [Oya, M. (1960): Topographical survey map of the middle and lower courses of the Kanogawa river basin showing classification of flood stricken areas. *Geographical Review of Japan*, **33**, 156-162. (in Japanese with English abstract)]
- Oya, M. (2001): *Applied Geomorphology for Mitigation of Natural Hazards*. Springer.
- Penck, W. (1924): *Die Morphologische Analyse: Ein Kapitel der Physikalischen Geologie*. J. Engelhorn's.
- 阪口 豊 (1959): 北海道の新しい地質時代の地殻運動。地理学評論, **32**, 401-431. [Sakaguchi, Y. (1959): The crustal movement of Hokkaido in the latest geologic age. *Geographical Review of Japan*, **32**, 401-431. (in Japanese with English abstract)]
- 阪口 豊 (1963): 日本の後氷期海面変動に対する疑問—縄文文化の絶対編年に寄せて—。第四紀研究, **2**, 211-219. [Sakaguchi, Y. (1963): On the postglacial sea level changes in Japan. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyu)*, **2**, 211-219. (in Japanese with English abstract)]
- 阪口 豊 (1964): 日本島の地形発達史について。地理学評論, **37**, 387-390. [Sakaguchi, Y. (1964): On the geomorphic history of Japan Arc. *Geographical Review of Japan*, **37**, 387-390. (in Japanese with English abstract)]
- 阪口 豊 (1965): 流域の発達と日本島流域の特性。地理学評論, **38**, 74-91. [Sakaguchi, Y. (1965): Development of a drainage basin and characteristics of the drainage basins of Japan. *Geographical Review of Japan*, **38**, 74-91. (in Japanese with English abstract)]
- 阪口 豊 (1966): 山はどのようにしてできるか—地形学の立場から—。科学, **36**, 360-367. [Sakaguchi, Y. (1966): Mountain building processes viewed from geomorphology. *Science Journal Kagaku*, **36**, 360-367. (in Japanese)*]
- 笹田友三郎 (1964): 地域の科学。紀伊国屋書店。[Sasada, T. (1964): *Regional Science (Chiiki No Kagaku)*. Kinokuniya Shoten. (in Japanese)*]
- 佐々木高明 (1953): 北米乾燥地域に於ける原始農耕生活—特にホビ族の場合—。人文地理, **5**, 25-41. [Sasaki, K. (1953): Primitive agricultural life in the dry region of North America. *Japanese Journal of Human Geography*, **5**, 25-41. (in Japanese with English abstract)]
- 佐々木高明 (1965): 焼畑農業の研究とその課題—焼畑の比較地理学への一序論—。人文地理, **17**, 630-656. [Sasaki, K. (1965): Some problems in the study of shifting cultivation. *Japanese Journal of Human Geography*, **17**, 630-656. (in Japanese)*]
- 佐藤 久 (1950): 溶岩流の地形分類—本邦火山体の地形学的研究 (1)—。東京大学地理学研究, **1**, 114-132. [Sato, H. (1950): Geomorphological classification of lava flows—A study of volcanic topography in Japan (1)—. *Bulletin of the Geographical Institute, University of Tokyo*, **1**, 114-132. (in Japanese with English abstract)]
- Schidegger, A.E. (1961): *Theoretical Geomorphology*. Springer.
- 式 正英 (1952): 北穂高岳北側斜面の水蝕地形。地理学評論, **25**, 448-457. [Shiki, M. (1952): Glacial landforms on the northern slopes of Mt. Kita-Hotaka. *Geographical Review of Japan*, **25**, 448-457. (in Japanese with English abstract)]
- 式 正英 (1960): 応用地理学の最近の動向—地形分類の発展—。地理, **5**, 35-45. [Shiki, M. (1960): Recent trends in applied geography—Development of landform classification—. *Geography (Chiri)*, **5**, 35-45. (in Japanese)*]
- 式 正英 (1961): 赤石山地北部の地形について。辻村太郎先生古稀記念事業会編: 辻村太郎先生古稀記念地理学論文集。古今書院, 224-238. [Shiki, M. (1961): On the landform of the northern part of the Akaishi Mountains. in *Geographical Essays in Commemoration of the 70th Birthday of Professor Taro Tsujimura (Tsujiimura Taro Sensei Koki Kinen Chirigaku Rombunshu)* edited by Commemorative Group for the 70th Birthday of Professor Taro Tsujiura, Kokon Shoin, 224-238. (in Japanese)*]
- 清水馨八郎 (1958): 戦後日本の選挙の実態—議員定数

- 固定化の弊害と小選挙区制の人口地理的考察— 古今書院. [Shimizu, K. (1958): *Actual Situation of Elections in Postwar Japan—The Shortcomings of Fixing the Number of Diet Seats and A Population Geography of Small Constituency System—* (Sengo Nihon No Senkyo No Jittai). Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 清水馨八郎・谷岡武雄・西村嘉助編 (1966): 応用地理学とその課題. 大明堂. [Shimizu, K., Tanioka, T. and Nishimura, K. eds. (1966): *Applications of Geography in Japan*. Taimeido. (in Japanese with English abstract)]
- 西水孜郎 (1949): 日本の農業—その経済地理学的研究—. 古今書院. [Sugai, S. (1949): *Agriculture in Japan—An Economic Geography—* (Nihon No Nogyo). Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 杉村 新 (1950): 関東地方周辺の海底段丘その他について. 地理学評論, **23**, 10-16. [Sugimura, A. (1950): On the submarine terraces along the coast of Kanto region and the others. *Geographical Review of Japan*, **23**, 10-16. (in Japanese with English abstract)]
- 杉村 新・第四紀文献センター (2016): 故大塚彌之助 東京大学教授の著作目録とその解説. 軽石学雑誌, **21**, 1-48. [Sugimura, A. and Quaternary Archives (2016): A bibliography of Yanosuke Otsuka, Professor at the University of Tokyo. *Zeitschrift für Bimssteinskunde (Karuishigaku Zasshi)*, **21**, 1-48. (in Japanese)*]
- Sugimura, A. and Naruse, Y. (1954): Changes in sea level, seismic upheavals, and coastal terraces in the Kanto region, Japan (I). *Japanese Journal of Geology and Geography*, **24**, 101-113.
- Sugimura, A. and Naruse, Y. (1955): Changes in sea level, seismic upheavals, and coastal terraces in the Kanto region, Japan (II). *Japanese Journal of Geology and Geography*, **26**, 165-176.
- 杉浦芳夫 (2004): 外国人地理学者による渡辺良雄の1950年代英語論文の引用について. 理論地理学ノート, **14**, 59-74. [Sugiura, Y. (2004): On citation of Watanabe's papers by foreign geographers. *Notes on Theoretical Geography*, **14**, 59-74. (in Japanese)]
- 水津一朗 (1957): 村落制度. 木内信蔵・藤岡謙二郎・矢嶋仁吉編: 集落地理講座 第1巻 総論. 朝倉書店, 315-344. [Suizu, I. (1957): Rural institutions. in *Lecture Series in Settlement Geography, 1: General Remarks (Shuraku Chiri Koza Dai 1 Kan Soron)* edited by Kiuchi, S., Fujioka, K. and Yajima, N., Asakura Shoten, 315-344. (in Japanese)*]
- 水津一朗 (1958): 「地域論」の機能主義的展開. 地理学評論, **31**, 577-590. [Suizu, I. (1958): Functionalism in a regional concept. *Geographical Review of Japan*, **31**, 577-590. (in Japanese with English abstract)]
- 水津一朗 (1964): 社会地理学の基本問題—地域科学への試論—. 大明堂. [Suizu, I. (1964): *Basic Issues in Social Geography—A Prelude to Regional Science—* (Shakai Chirigaku No Kihon Mondai). Taimeido. (in Japanese)*]
- 鈴木秀夫 (1960): 北海道北部の周氷河地形. 地理学評論, **33**, 625-628. [Suzuki, H. (1960): Periglaziale Erscheinungen in Nord-Hokkaido. *Geographical Review of Japan*, **33**, 625-628. (in Japanese with German abstract)]
- 鈴木秀夫 (1962): 低位周氷河現象の南限と最終氷期の気候区界. 地理学評論, **35**, 67-76. [Suzuki, H. (1962): Southern limit of periglacial landform at low level and the climatic classification of the latest Ice Age in Japan. *Geographical Review of Japan*, **35**, 67-76. (in Japanese with English abstract)]
- 鈴木秀夫・野上道男・田淵 洋 (1964): 化石周氷河現象の観察. 第四紀研究, **3**, 167-177. [Suzuki, H., Nogami, M. and Tabuchi, H. (1964): Some observations of fossil periglacial phenomena. *Quaternary Research (Daiyonki Kenkyu)*, **3**, 167-177. (in Japanese with English abstract)]
- 多田文男 (1964): 自然環境の変貌—平野を中心として—. 東京大学出版会. [Tada, F. (1964): *Natural Environmental Change—Focusing Mainly on Alluvial Plains—* (Shizen Kankyo No Hembo). University of Tokyo Press (in Japanese)*]
- 多田文男・井関弘太郎 (1955): 濃尾平野の地形構造と地盤沈下. 総理府資源調査会. [Tada, F. and Iseki, H. (1955): *Geomorphological Structures and Ground Subsidence in the Nobi Plain, Central Japan (Nobi Heiya No Chikei Kozo To Jiban Chinka)*. Resources Council of the Prime Minister's Office. (in Japanese)*]
- 多田文男・谷津榮寿・三井嘉都夫 (1952): 渡良瀬川における土砂の堆積について (第1報). 資源科学研究所彙報, **25**, 31-37. [Tada, F., Yatsu, E. and Mitsui, K. (1952): On the aggradation of the River Watara-se (1). *Miscellaneous Reports of the Research Institute for Natural Resources*, **25**, 31-37. (in Japanese with English abstract)]
- 多田文男・岡山俊雄・井関弘太郎 (1954): 地学的に見た登呂遺跡. 日本考古学協会編: 登呂 本編. 毎日新聞社, 301-313. [Tada, F., Okayama, T. and Iseki, H. (1954): Toro sites from point of view of physical geography. in *Toro: A Report on the Excavation of the Toro Sites (1948-1950)* edited by Japanese Archaeological Association, Mainichi Shimbunsha, 301-313. (in Japanese)]
- 高野史男 (1959): 都市化の類型と概念規定. 地理学評論, **32**, 629-642. [Takano, F. (1959): The types and definition of "urbanization." *Geographical Review of Japan*, **32**, 629-642. (in Japanese with English abstract)]
- 武田裕幸 (1962): 航空写真による古期岩の地質判読. 写真測量, **1**, 12-17. [Takeda, H. (1962): Geological photo-interpretation of older rocks in Japan. *Journal of the Japan Society of Photogrammetry*, **1**, 12-17. (in Japanese with English abstract)]
- 竹下敬司 (1961): 地形的災害と斜面の微地形に関する

- 森林立地学的研究. 福画県林業試験場時報, **13**, 1-116. [Takeshita, K. (1961): Forest environment study on the relations between geomorphic disasters and slope microtopography. *Bulletin of Fukuoka-ken Forest Experiment Station*, **13**, 1-116. (in Japanese)*]
- 竹内啓一 (1965): イタリアにおける農村集落の諸類型. 経済地理学年報, **11**, 33-47. [Takeuchi, K. (1965): A Note on the classification of the rural landscapes of Italy. *Annals of the Japan Association of Economic Geographers*, **11**, 33-47. (in Japanese with English abstract)]
- Tanabe, K. (1959): Development of areal structure of Japanese cities in the case of castle towns—As a geographic contribution to the study of urban structure. *Science Reports of Tohoku University, 7th Series (Geography)*, **8**, 88-105.
- 田中啓爾 (1949a): 地理学の本質と原理. 古今書院. [Tanaka, K. (1949a): *The Essence and Principle of Geography (Chirigaku No Honshitsu To Genri)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 田中啓爾 (1949b): 東京都新誌. 日本書院. [Tanaka, K. (1949b): *A New Chorography of Tokyo (Tokyo Shinshi)*. Nihon Shoin. (in Japanese)*]
- 田中啓爾 (1957): 塩および魚の移入路—鉄道開通前の内陸交通—. 古今書院. [Tanaka, K. (1957): *Inland Routes of the Transportation of Salt and Fishes—Inland Transport Before Opening of Railways in Japan—*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 谷岡武雄 (1962): IGU スtockホルム会議以後における応用地理学界の動向—フランスを中心として—. 人文地理, **14**, 301-313. [Tanioka, T. (1962): Trends in applied geography since the IGC in Stockholm—Focusing mainly on France—. *Japanese Journal of Human Geography*, **14**, 301-313. (in Japanese)*]
- 谷岡武雄 (1963): 平野の地理—平野の発達と開発に関する比較歴史地理学方法論—. 古今書院. [Tanioka, T. (1963): *Geography of Alluvial Plains—A Comparative Historical Geographical Perspective on the Formation and Development of Alluvial Plains—(Heiya No Chiri)*. (in Japanese)*]
- 谷岡武雄 (1964): 平野の開発—近畿を中心として—. 古今書院. [Tanioka, T. (1964): *Reclamation of Alluvial Plains—Focusing Mainly on Kinki—(Heiya No Kaihatsu)*. (in Japanese)*]
- 東京地盤調査研究会 (1959): 東京地盤図. 技報堂. [Commission on Ground Investigation for Tokyo (1959): *Tokyo Ground Map (Tokyo Jiban Zu)*. Giho-do. (in Japanese)*]
- 富岡儀八 (1960): 瀬戸内海における機帆船交通の二三の特相. 地理学評論, **33**, 363-378. [Tomioka, G. (1960): Some characteristic features of “kihansen” (steam-and-sail boat) traffic in the Seto Inland Sea. *Geographical Review of Japan*, **33**, 363-378. (in Japanese with English abstract)]
- 富田芳郎 (1960): 地理学研究における1課題. 地理学評論, **33**, 297-300. [Tomita, Y. (1960): A problem of geographical research. *Geographical Review of Japan*, **33**, 297-300. (in Japanese)]
- 鳥海 公 (1965): 中学生の地理的思考や理解の傾向 (その2). 新地理, **13**(3), 47-59. [Toriumi, K. (1965): The geographical understanding of the students at the stage of the lower secondary school (Part II). *New Geography*, **13**(3), 47-59. (in Japanese)]
- Tricart, J. (1952): *Cours de Géomorphologie. Deuxième Partie. Géomorphologie Climatique. Fascicule I. Le Modelé des Pays Froids. 1. Le Modelé Périglaciaire*. Centre de Documentation Universitaire. トリカル, J. 著, 照田宥子訳 (1963): 周水河地形. 創造社. [Tricart, J. (1952): *Cours de Géomorphologie. Deuxième Partie. Géomorphologie Climatique. Fascicule I. Le Modelé des Pays Froids. 1. Le Modelé Périglaciaire*. Centre de Documentation Universitaire. Tricart, J. (1963): *Periglacial Landforms (Shuhyoga Chikei)* translated by Teruta, Y., Sozosh. (in Japanese)*]
- Tricart, J. and Cailleux, A. (1955): *Introduction à la Géomorphologie Climatique*. Centre de Documentation Universitaire. トリカル, J., カユ, A. 著, 谷津栄寿・照田宥子訳 (1962): 気候地形学序説. 創造社. [Tricart, J. and Cailleux, A. (1955): *Introduction à la Géomorphologie Climatique*. Centre de Documentation Universitaire. Tricart, J. and Cailleux, A. (1962): *Introduction to Climatic Geomorphology (Kiko Chikeigaku Josetsu)* translated by Yatsu, E. and Teruta, Y., Sozosh. (in Japanese)*]
- 土 隆一 (1959): 日本平とその周辺の地形発達史. 地理学評論, **32**, 642-652. [Tsuchi, R. (1959): Topographic development of Nihon Daira and its surroundings in Shizuoka prefecture. *Geographical Review of Japan*, **32**, 642-652. (in Japanese with English abstract)]
- 辻村太郎 (1929): 日本地形誌. 古今書院. [Tsujimura, T. (1929): *Regional Geomorphology in Japan (Nihon Chikeishi)*. Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 辻村太郎 (1952): 日本の準平原問題. 東京大学地理学研究, **2**, 1-21. [Tsujimura, T. (1952): Peneplain problems in Japan. *Bulletin of the Geographical Institute, University of Tokyo*, **2**, 1-21. (in Japanese)*]
- 辻村太郎編 (1955): 地理学本質論 (新地理学講座 第2巻). 朝倉書店. [Tsujimura, T. ed. (1955): *The Essence of Geography (New Lecture Series in Geography, 2) (Chirigaku Honshitsuron)*. Asakura Shoten. (in Japanese)*]
- 辻田右左男 (1960): 戦後15年間の地理教育—その回顧と問題点—. 人文地理, **12**, 450-463. [Tsujita, U. (1960): Geography education during the post-war fifteen years. *Japanese Journal of Human Geography*, **12**, 450-463. (in Japanese)*]
- 内田寛一 (1952): 本誌創刊号に序す. 新地理, **1**(1), 1. [Uchida, K. (1952): Preface to the first issue of the journal. *New Geography*, **1**(1), 1. (in Japanese)*]
- 内田寛一 (1959): 歴史地理学序説. 森 鹿三・織田武

- 雄編：歴史地理講座 第1巻 総論・ヨーロッパ。朝倉書店，3-12。[Uchida, K. (1959): Foreword to historical geography. in *Lecture Series in Historical Geography, 1: General Remarks, Europe (Rekishi Chiri Koza Dai 1 Kan Soron Europe)* edited by Mori, S. and Oda, T., Asakura Shoten, 3-12. (in Japanese)*]
- 渡辺 光 (1952): 日本の地形区。地学雑誌, **61**, 1-7。[Watanabe, A. (1952): Landform divisions of Japan. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **61**, 1-7. (in Japanese with English abstract)]
- 渡辺 光監修 (1954-1956): 日本地名事典 (全4巻)。朝倉書店。[Watanabe, A. ed. (1954-1956): *Gazetteer of Japan (4 Vols.) (Nihon Chimei Jiten)*. Asakura Shoten. (in Japanese)*]
- 渡辺 光 (1957): 日本の主要海岸区。地学雑誌, **66**, 1-16。[Watanabe, A. (1957): Major geomorphological divisions of the coast of Japan. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **66**, 1-16. (in Japanese with English abstract)]
- Watanabe, Y. (1955): The central hierarchy in Fukushima Prefecture: A study of types of rural service structure. *Science Reports of Tohoku University, 7th Series (Geography)*, **4**, 25-46.
- Watanabe, Y. (1960): The trade areas in the central part of Iwate structure: A study on the hierarchy of central places viewed from rural buying habits. *Science Reports of Tohoku University, 7th Series (Geography)*, **9**, 25-39.
- 戴内芳彦 (1958): 漁村の生態—人文地理学的立場—。古今書院。[Yabuuchi, Y. (1958): *Ecology of Fishing Communities—A Human Geography—* (Gyoson No Seitai). Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 矢嶋仁吉 (1954): 武蔵野の集落。古今書院。[Yajima, N. (1954): *Rural Settlements on the Musashino Upland*. Kokon Shoin. (in Japanese)]
- 矢嶋仁吉 (1956): 集落地理学。古今書院。[Yajima, N. (1956): *Settlement Geography*. Kokon Shoin. (in Japanese)]
- 山鹿誠次 (1960): 大都市近郊の都市化—東京西郊を例として—。地学雑誌, **69**, 187-199。[Yamaga, S. (1960): Urbanization in the suburban areas of large cities: Case of the western suburb of Tokyo. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **69**, 187-199. (in Japanese with English abstract)]
- 山鹿誠次編 (1965): 都市発展の理論。明玄書房。[Yamaga, S. ed. (1965): *Theories of Urban Development (Toshi Hatten No Riron)*. Meigen Shobo. (in Japanese)*]
- 山口平四郎 (1956): 交通地理学の発展。人文地理, **8**, 299-310。[Yamaguchi, H. (1956): Recent problems of geography of transportation. *Japanese Journal of Human Geography*, **8**, 299-310. (in Japanese)]
- 山口弥一郎 (1964): 集落の構成と機能—集落地理学の基礎的研究—。文化書房。[Yamaguchi, Y. (1964): *The Structure and Function of Rural Settlements in Japan—Basic Studies in Settlement Geography—* (Shuraku No Kosei To Kino). Bunka Shobo. (in Japanese)*]
- 山本幸雄 (1958): 地理教育史—わが国九十年間の地理教育の歩み—。大修館書店。[Yamamoto, Y. (1958): *History of Geography Education—90 Years Trajectory of Geography Education in Japan—* (Chiri Kyo-ikushi). Taishukan Shoten. (in Japanese)*]
- 山崎直方 (1902a): 氷河果して本邦に存在せざりしか。地質学雑誌, **9**, 361-369。[Yamasaki, N. (1902a): Existence of glaciers in Japan. *Journal of the Geological Society of Japan*, **9**, 361-369. (in Japanese)*]
- 山崎直方 (1902b): 氷河果して本邦に存在せざりしか (前号の続)。地質学雑誌, **9**, 390-398。[Yamasaki, N. (1902b): Existence of glaciers in Japan. *Journal of the Geological Society of Japan*, **9**, 390-398. (in Japanese)*]
- 矢守一彦 (1965): 都市形態の歴史地理的研究序説—ヨーロッパ中世都市を中心に—。人文地理, **17**, 396-414。[Yamori, K. (1965): A historical geography of urban morphology. *Japanese Journal of Human Geography*, **17**, 396-414. (in Japanese)]
- 谷津栄寿 (1950): 秩父山地の起伏量について。大塚地理学会編：田中啓爾先生記念大塚地理学論文集。目黒書店, 323-331。[Yatsu, E. (1950): On the relief energy of the Chichibu Mountains. in *Otsuka Geographical Essays in Commemoration of Professor Keiji Tanaka (Tanaka Keiji Sensei Kinen Otsuka Chirigaku Rombunshu)* edited by Otsuka Geographical Society, Meguro Shoten, 323-331. (in Japanese)*]
- 谷津栄寿 (1954): 平衡河川の縦断面形について(1)。資源科学研究所彙報, **33**, 15-24。[Yatsu, E. (1954): On the longitudinal profile of the graded river. *Miscellaneous Reports of the Research Institute for Natural Resources*, **33**, 15-24. (in Japanese with English abstract)]
- 谷津栄寿 (1965a): 地すべりの分類について。地球科学, **76**, 34-37。[Yatsu, E. (1965a): Sur la classification des glissements de terrain. *Earth Science (Chikyu Kagaku)*, **76**, 34-37. (in Japanese with French abstract)]
- 谷津栄寿 (1965b): 日本の地すべり粘土について。粘土科学, **4**, 54-66。[Yatsu, E. (1965b): Sur les argiles des glissements de terrain au Japon. *Journal of the Clay Science Society of Japan*, **4**, 54-66. (in Japanese with French abstract)]
- 米倉二郎 (1949): 聚落の歴史地理。帝国書院。[Yonekura, J. (1949): *The Historical Geography of Settlements in Japan (Shuraku No Rekishi Chiri)*. Teikoku Shoin. (in Japanese)*]
- 米倉二郎 (1960): 東亜の集落—日本および中国の集落の歴史地理学的比較研究—。古今書院。[Yonekura, J. (1960): *Settlements in East Asia—Comparative Historical Geographical Studies on Japanese and Chinese Settlements—* (Toa No Shuraku). Kokon Shoin. (in Japanese)*]
- 米倉伸之 (1996): 日本における自然地理学の発展。西

- 川 治編：地理学概論. 朝倉書店, 117-127. [Yonekura, N. (1996): Development of physical geography in Japan. in *Introduction to Geography (Chirigaku Gairon)* edited by Nishikawa, O., Asakura Shoten, 117-127. (in Japanese)*]
- 吉川虎雄 (1947): 地形の逆轉に就いて—遠州牧野原に於ける實例—. 地理学評論, **21**, 10-12. [Yoshikawa, T. (1947): On the inversion of topography. *Geographical Review of Japan*, **21**, 10-12. (in Japanese)]
- 吉川虎雄 (1961): 木曾川の河岸段丘—御岳火山と濃尾平野との地形発達の関連を中心として—. 辻村太郎先生古稀記念事業会編：辻村太郎先生古稀記念地理学論文集. 古今書院, 70-87. [Yoshikawa, T. (1961): River terraces along the Kiso River—Focusing on the relationships between the Ontake Volcano and the Nobi Plain—. in *Geographical Essays in Commemoration of the 70th Birthday of Professor Taro Tsujimura (Tsujimura Taro Sensei Koki Kinen Chirigaku Rombunshu)* edited by Commemorative Group for the 70th Birthday of Professor Taro Tsujiura, Kokon Shoin, 70-87. (in Japanese)*]
- 吉川虎雄・貝塚爽平 (1956): 地盤運動と海面変化. 地理学評論, **29**, 628-636. [Yoshikawa, T. and Kaizuka, S. (1956): Crustal movement and sea-level change. *Geographical Review of Japan*, **29**, 628-636. (in Japanese)*]
- 吉川虎雄・貝塚爽平・太田陽子 (1964): 土佐湾北東岸の海岸段丘と地殻変動. 地理学評論, **37**, 627-648. [Yoshikawa, T., Kaizuka, S. and Ota, Y. (1964): Mode of crustal movement in the late Quaternary on the southeast coast of Shikoku, southwestern Japan. *Geographical Review of Japan*, **37**, 627-648. (in Japanese with English abstract)]
- * Title etc. translated by present authors.